

7. 高齢者と公民館

公民館における高齢者事業は、昭和55年10月から準備会をスタートし、昭和56年「語らいの広場」として正式スタートした。取組み初年は公民館3館及び扶桑会館の4コースの試みで開催したが各種条件不足等で一部単発事業に終わる。以後5年間は毎年2コースほどの実施ではあったが、事業の考え方、進め方等を蓄積することとなる（公民館10年のあゆみ参照）。

昭和62年度以降公民館11年目に入る時点では、社会の高齢化が本格的に進展し、当市もこの状況が顕在化しはじめたことから、公民館の高齢者事業について更に力点をおいて拡大・展開を図ることとした。約3年“熟年ひろば”、“人生をうたおう会”、“老壯懇話会”といった企画に加え“やじきたハイキング”“高齢者ワープロ教室”を開催し企画・活動のベースづくりをし、平成2年の市制20周年を契機にその記念事業の一環として、「寿市民ひろば」と命名した新たな段階での事業を開催する運びとなった。

まず平成元年度に、“熟年ひろば”参加者を核として準備活動に取り組み、語らい学習コース、大ホール講演会、シルバーコーラスほか各種の具体的な事業企画を編成した。迎えた平成2年度には多数の高齢者市民の参加を得ることができ、準備委員の活動が実を結ぶこととなった。特に60歳以上の全世帯への案内は準備委員の全員がこの発送作業に取り組み、これまで以上に互いのつながりを深めるものとなったり、多くの参加者を得る結果となった。このことは、市の高齢化施策における重点事業の一つとして実施計画で採択され、以後の事業体制の充実整備が図られることとなる。

平成2年度にこの事業で、一時休止していた本館の“語らいの広場”が復活するとともに、平成3年度には“自分史もくせい”と松林分館の“さ

つきひろば”が新たに発足することにより、3館合同開催の体制が整ってきた。また、この事業は高齢者活動に関連する公共及び市民活動とも連携しながら展開するようになってきている。

以下平成9年度の「寿市民ひろば」の事業企画を記し、現在の到達点を示すこととする。

第8回寿市民ひろば

市制20周年記念事業（平成2年度）を契機に開始し、今年度はその第8回目として実施する。

1. 目標

(1) 「市民創意による“ふるさと福生づくり”」を基本目標とするこの事業は、人生80年時代を迎える高齢期を社会の一員（担い手）として楽しく元気に生きるまち福生」を目指す。この事業は、高齢期の自己実現・生活づくり及び健康づくりをすすめる市民の活動と公民館との共催事業として開催し、多数の高齢者市民（関心ある若い世代含む）の参加を得て、高齢期の生きがいある生活・活動づくりや地域づくりへの広がりとなるよう実施する。

(2) また、当該事業は市民と行政（公共機関）との幅広い連携により毎年実施し、今年度は『寿市民ひろば』各種事業の充実を図り、現代社会の課題及び高齢者の生活課題等の話し合い学習の機会を多く設定し実施するものとする。

2. 企画

I 実施期間 平成9年9月～12月
II 場所 公民館（本館、白梅分館、松林分館）、市民会館ホール、ほか

III 事業活動

(1) 合同活動 ① 寿市民ひろば実行委員会

- (4回)
- ② 寿講演会（3回） “市長と語ろうわが街ふっさ” 含む
 - ③ 人生うたい語りのつどい
(1回小ホール)
- (2) 出会い・ふれあい（総合活動）
- ④ 熟年ひろば (10回)
白梅分館
 - ⑤ 語らいの広場 (〃)
本館
 - ⑥ さつきひろば (〃)
松林分館
- (3) さらに関心を深める
- ⑦ 自分史を書く (5回)
本館
 - ⑧ コール白梅 (10回)
白梅分館
 - ⑨ 若葉コーラス (〃)
本館

尚、この事業構成において、合同活動は各コースの相互交流の機会とする。また年1回寿市民ひろば文集「もくせい」を刊行する。

IV 実行委員会構成

市	公共機関	市民活動
社会教育部 公民館	シルバー人材センター	上記④～⑨のグループ
社会教育課 体育馆		ほか市民活動への連絡
福祉部 在宅福祉課 (高齢福祉)	社会福祉協議会 (高齢者事業)	

以上の構成・事業編成により、毎年6月～8月は実行委員会で前回事業のまとめ、今回事業企画決定、通知発送を実施し、9月より一斉に各コース開始となる。開催期間中の実行委員会は進行中の合同活動の細部企画を立案し、フィナーレの“人生うたい語りのつどい”で概ね終了する。これ以後は各自自主活動にむけることとなる。

高齢者活動この10年のあゆみにおいて、公民館事業としての定着とともに戦後50年の市の記念誌

は戦争体験の項において、“寿市民ひろば”参加者からの多数執筆投稿が得られ刊行されたことは意義深いものであった。また60歳以上の世帯は平成8年に7,246から9年には7,643とのこの1年で397世帯増となっている。こうした状況から実行委員会の高齢者活動連絡会機能を高めること等により、これから活動の地域への広がりと社会参加に備えるようにする。

寿市民ひろば開催趣旨と参加のお誘いについて

平成2年度（市制20周年）を期にスタートしました『寿市民ひろば』は、高齢期を元気に生きるまち“ふっさ”を目指し、毎年開催されております。

日本社会の高齢化（当市も）は、現在も顕著に進行していると言われています。この社会動向の中、各種の課題はありますが、“日本人の寿命の伸長”という点については大いに喜び合いたいと思いますし、ここから私達の活動を進めていきたいと考えます。

生活を営み、社会をつくり・支えてきた皆様の今・高齢期は、第2の青春です。60才（代）はこのスタートラインではないでしょうか。これまでの生活経験を基礎に、新たな仲間づくりを通して生きがい発見にむけたいと思います。

また、この事業は『寿市民ひろば』と命名し、一般の“寿大学”的内容を備えながら、都市社会に住む人々が気軽に集える場“ひろば”的イメージを大切にしていきたいと考えています。

そこで、“生涯現役”を目標に、これから的人生を楽しく有意義に過ごす契機となりますよう、別紙のとおりお知らせします。

多数の皆様のご参加をお待ちしております。

尚、この通知は60才以上の全世帯に送付しています。

通知内容

- ①全コース概要紹介のパンフレット、②6コースプログラム内容を同封させていただいております。

◎お誘い合わせの上、お気軽におでかけください!!

寿 講 演 会

◆日時：10月4日（土）午後2時～4時

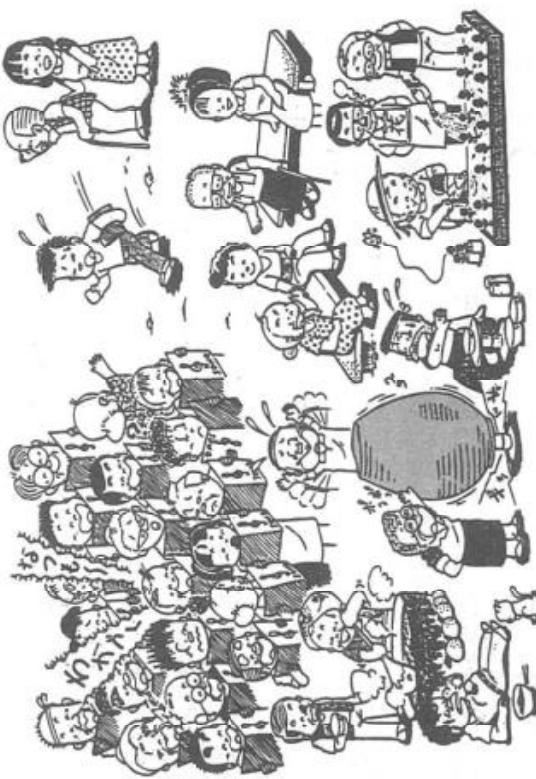
- 演題「都市景観についてⅠ」美術造形の視点から
講師 北川 フラム氏（アートディレクター）

東京芸術大学美術部卒、神戸震災跡地の再開発事業や、立川市のアートプランナーの役を務め、日本都市計画学会賞などを受賞された先生です。

（平成9年度）

寿市民ひろば

人生80年時代 輝く 私達の人生を！



◆日時：11月1日（土）午後2時～4時

- 演題「都市景観についてⅡ」自然と人間の暮らしから
講師 宮岡 一雄氏（前、明治大学教授）

熊川に在住し、市内の全樹木の調査をはじめ、市の各種審議委員を歴任され、福生のまち・文化に大変深い関心をお持ちの先生です。

寿懇 談 会

◆日時：11月19日（水）午後2時～4時

- 懇談会 「市長と語ろう！ わが街ふっさ」

福生市長 石川 彌八郎

- ◆場所：各回とも、福祉会館3階ホールで実施します。
どなたでも直接入場できますので、おでかけください。

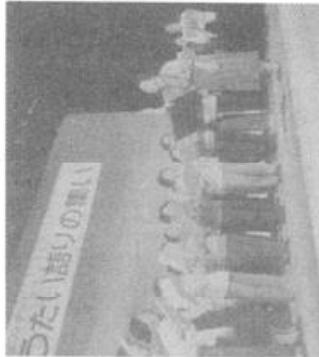
■人生うたい語りの集い■

◆日時：11月27日（木）午後2時～4時

◆場所：福祉センター地階教養室

◆内容：福祉センター利用者との交流会を主に、人生わたしの意見発表やなつかしい歌のコーラスなどを行います。
どなたでもお気軽におでかけください。

このほか各種催しは、裏面をご覧下さい。



仲間づくり生きがいづくりにむけて

この催しは、“人生を楽しく元気に生きるまち福生”を目指し、9月9日から、講演会や“つどい”の他に、以下の6コースを加えた多彩な内容でスタートします。

私達の関心を更に深めるために

語らいの広場

日時：9月10日（水）午前10時～正午
(以降毎週水曜日、全11回 火曜日2回)

場所：公民館本館（10月から福祉会館）



「コール白梅」 「若葉コーラス」

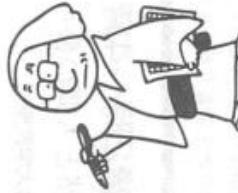
●日時：9月9日（火）午前9時30分～11時30分
(以降毎週火曜日、全12回)
水曜日1回、日曜日2回

●場所：白梅分館
指導・ピアノ：山下やよい氏
（10月から福祉会館）
指揮・ピアノ：小田切洋子氏

内容：両コース共、人生を綴る懐かしい曲、思い出の歌が盛沢山です。

12月7日（日）

ミニコンサート
(ハーフ・ピアノ・歌)



「自分史を書く」（自主活動）

●日時：10月下旬から 午前10時～正午
(以降毎週木曜日 全5回)

●場所：福祉会館

内容：人生のひとつひとつをふりかえり、自分なりの文章で書きつづり、書く楽しさを分かち合います。
また、毎年、文集“寿市民ひろば”「もくせい」を発行します。
10月15日号の広報ふつさで募集掲載します。
<青壮年・女性の方の参加大歓迎!!>

さつきひろば

日時：9月18日（木）午前10時～正午
(以降毎週木曜日、全11回 火曜日2回)

場所：松林分館

熟年広場

日時：9月12日（金）午前10時～正午
(以降毎週金曜日、全13回 日曜日2回)

場所：白梅分館

◆内容（ひろば3コースとも）

私達の人生の歩み、生活・まちの話題、健康づくり等を語り合い探訪ぶつさ多摩
(バスによる見て歩き)、懐かしの名曲VTR鑑賞会や親睦会その他、多彩な話題提供
者や実習・実践の機会を用意しています。また、参加者の皆様の希望により、仲間
づくりや生きがいづくりの場として進めてまいります。

●この6コースの申込み・問合せ

(9月5日から、各コース開催会場へ)

公民館本館 [☎52-1711] 10月から福祉会館
松林分館 [☎52-3624]
白梅分館 [☎53-3454]

『寿市民ひろば』の活動について

立川 愛雄



公民館活動としての高齢者を対象として呼びかけがあったのは、昭和55年10月のことである。「高齢者の語らいのひろばづくり」準備会をとの呼びかけがあった（10月11日付）。そして56年2月2日市内各層・各サークルからの39名（男子10名）中17名（男4名）運営委員を選任委嘱して発足する。

昭和56年度事業として、公民館三館（本館・松林・白梅）と扶桑会館という地域会館での事業として、四館で『語らいのひろば』なる集いが発足することになった。56年6月24日のことである。新しい試みでもあり各館ともこの運営は、幾多の試行錯誤を繰り返しながらも、それぞれに最寄り地域の方々のこ参加ご協力を得て、多彩な内容でスタートだったのである。急速な高齢化、平均寿命の伸長により、元気に高齢期を過ごす場の設定が、強く要望されるようになってきたのであったが、地区状況や実施条件などから一部単発事業となった経緯もできた。ひとり、白梅分館では、かつてこの地には、東京都の巡回図書館「むらさき号」熊川ポストの読書会の方々が参加されており、さらには、当時、白梅分館利用者代表の公運審委員の佐久間登世子さんのご協力は大書すべきで『熟年ひろば』として、引き続き集いを開催するのであった。

平成2年、福生市では「市制20周年」を記念して、市民の創意による『ふるさと福生つくり』を基本目標として、人生80年時代を迎えた高齢期の方々にも、地域社会の一員（担い手）として、健

やかな心身と、体験から会得した様々（老いの智慧）を明るい街づくりへの一翼を！というよびかけに応えたのが『寿市民ひろば』だ。

これまで、地域ごとの集いであったが、全市民（60才以上）と、関心ある若人にも呼びかけて、公民館を会場としてそれぞれに、新しい旅立ちとなつた。

『寿市民ひろば』の企画・運営は、次のようになつてゐる。

- | | |
|------------------------------|---|
| 1 実施期間 | 9月から12月まで。おおむね
10回開催 |
| 2 会場 | 公民館（本館・松林分館・白梅
分館） |
| 3 合同活動 | 講演会～3回 公民館本館にて
開催

人生歌い語りの会～1回 公民
館ホールにて 各サークルが参
加 |
| 4 出会い ふれあい～自主サークルとは
語らい広場 | =公民館本館（定例一月2回）
若葉コーラス=〃（定例一月2回）
指導 小田切洋子先生 |
| さつきひろば=松林分館 | （定例一月2回） |
| 熟年ひろば =白梅分館 | （毎金曜日開催） |
| コール白梅 =〃 | （定例一月3回）
指導 山下やよい先生 |
| 自分史を書く=公民館本館 | （月1回最終木
曜日）「木犀会ーもくせい
かい」 |

『寿市民広場』への参加者は、引き続き自主サークルとして、ほのぼのとした語らいのうちに友情を深め、更に街の歴史や先人の遺物を探り、ふるさと福生との奇しき縁に一期一会の想い一入の日々となることであろう。

昭和62年度

やじきたハイキング

月 日	コ ー ス	講 師	参加者
6. 15	御岳山一日の出山—吉野梅郷	吉野チエ 吉原寿子	25人
10. 12	高尾山一峰の薬師—津久井湖		25人
12. 7	天覧山と高麗郷		25人
2. 8	払沢の滝—吉祥寺		25人

昭和63年度

高齢者ワープロ教室

期 間	内 容	指 導 者	参加者
6月29日（水）～7月2日（土） 午前 全4回	ハンディタイプのワードプロセッサーの基本操作と簡単な文章作成	遠藤 理恵 井梅 靖子	60人
11月30日（水）～12月5日（月） 午前 全6回			60人

やじきたハイキング

実 施 日	内 容 と コ ー ス	講 師	参加者
4. 29～6. 3	5回に渡って野外活動の基礎的な知識を学んだ	吉野チエ 吉原寿子	25人
6. 8	塩船—七国峠—岩藏		25人
7. 11	吾野—顔振峠—黒山三滝—越生		25人
9. 19	高尾山—稻荷尾根		25人
11. 14	和田峠—陣馬山—相模湖		25人
元. 1. 23	青梅七福神		25人
3. 13	百草園—高幡不動尊		25人

平成元年度

高齢者ワープロ教室

期 間	内 容	指 導 者	参加者
12月6日（水）～11日（月） 午前10時～正午 全6回	ハンディタイプのワードプロセッサーの基本操作と簡単な文章作成	築地 尚美	60人 × 6回 =360人

やじきたハイキング

月 日	行 先 及 び コ ー ス	講 師	参 加 者
5. 8	瑞穂町六道山 公民館一六道山一狭山池一公民館	吉野チエ	25人
8. 7	日の出町白岩の滝 福生駅一肝要一白岩の滝 日の出山一吉野一軍畠駅一福生駅	吉原寿子	25人
10. 16	日和田山 東福生駅一高麗駅一日和田山一物見山一武藏 横手駅一福生駅		25人
12. 11	天狗岩 牛浜駅一青梅駅一畠中一馬引沢峠一天狗岩一 梅ヶ谷峠一吉野一宮平駅一福生駅		25人
1. 29	川越市喜多院 牛浜駅一本川越駅一東照宮一喜多院 五百羅漢一氷川神社一時の鐘一本川越駅一牛浜駅		25人

平成2年度

高齢者ワープロ教室

期 間 平成3年3月13日(水)～3月18日(月) 午後2時～4時 全6回

会 場 公民館本館

参 加 者 10人×6回=60人

内 容 ハンディタイプのワードプロセッサの基本操作と簡単な文章作成

講 師 進藤 知美 他

やじきたハイキング

期 間	内 容	講 師	参 加 者
4月～3月隔月 (全7回)	近場の野山・ハイキングコース (バス利用含む)	吉野チエほか	190人

『寿市民ひろば』

人生80年時代を迎える、①“高齢期を社会の一員（担い手）として元気に生きるまち福生”を目指し、② 高齢期の生活づくり・社会参加にむけて活動する市民グループを軸に、地区福寿会やシルバー人材センター会員はじめ多数の高齢者市民の学習文化活動への参加の機会とし、③ 市行政の教育・福祉両部門の提携により以下のように実施した。

「寿市民ひろば」実行委員会

“寿市民ひろば”事業活動の企画・実施について、高齢者市民参加及び教育・福祉職員の合同で実行委員会を開催した。

期 間 平成 2 年 4 月 20 日 (金) ~ 11 月 16 日 (金)

会 場 公民館 ほか

参加者 26 人 × 9 回 + 40 人 = 274 人

月 日	内 容	備 考
4. 20	企画準備事項、実行委員会日程、班・手分け	企画準備段階
5. 17	各企画内容ツメ、広報・募集要項について	
6. 7	企画折衝、広報・P R 段取り、報告交歓	
21	誘いかけ・P R、通知発送作業手順、内容確認	
7. 5	催し開始後の P R や内容展開について	
19	段取り報告、催し 1 回目の打ち合わせ	↓
8. 16	ふれあい会進め方、9 月事業の展開について	実 行 段 階
9. 13	合同活動検討、探訪ふっさ、パネル討論 E T C	
10. 4	最終「人生歌い語り」、今後の活動継続等	↓
11. 16	反省親睦“檜原・奥多摩路”を訪ねて	バスツアー親睦

※実行委員会は“寿市民ひろば”的要として市民・市職員の提携で企画推進し、特に60才以上の全市民（約7200人）へのお知らせ通知発送作業を市民のグループで実施したことは、今後の活動に大きな期待をもてるものとなった。

合同活動

I 口演 「小沢 昭一的こころ」 来場者 700人

7月27日(金) 午後1時30分～4時	市民会館 大ホール	味のある切り口で楽しい語り、小沢昭一のヒューマンな世界・人生	出演 俳優 小沢 昭一
------------------------	--------------	--------------------------------	----------------

II 寿講演会 会場 小ホール

月 日	演 題	講 師	参加者
8. 10 午前10時～正午	地球の自然環境について	宮岡 一雄 明治大学教授	40人
8. 24 午前10時～正午	高齢者福祉の現状と課題	川辺 進 元老人ホーム生活指導員	120
9. 7 午前10時～正午	天気・気象と生活・社会	中村 次郎 日本気象協会主任技師	130
10. 5 午後1時30分～ 3時30分	(パネルディスカッション) 「高齢期の生活づくり」 家庭・地域・仕事と私達	原田 正二(元大正大学教授) 宮沢 成美(東京ボラセンター) 古谷 富治(市高齢者事業団)	80

III 花いっぱい活動

12. 14	中央公園花壇、会館前庭	葉ボタン花文字	参加者 25人
--------	-------------	---------	---------

IV 探訪福生わがまち再発見

9. 21 午前10時～午後4時	コース：公民館——水喰土公園——横田基地 新掘橋上水公園——清岩院——市役所	参加者 80人
---------------------	---	---------

V 人生唄い語りの集い 会場 小ホール

10. 19 午後1時30分～4時	人生を綴る曲のメドレーをはさみ、人生私の意見発表及び市民出演によるアトラクション	来場者 150人
----------------------	--	----------

ふれあい語らい会

I 公民館コース

期 間 平成2年8月18日（土）～10月13日 午前10時～正午 全4回

会 場 公民館（本館）

参加者 20人×4回＝80人

日 時	内 容	備 考
8. 18	私の人生の歩み、出会い自己紹介	話し合い
9. 1	花の苗の育て方	石川泰広（地元花栽培農家）
9. 29	身近な同年輩者の様子	民生委員（A班）さんとの交歓
10. 13	家庭介護入門	福生保健所保健婦

平成3年度

『寿市民ひろば』

“寿”講演会

期 間 平成3年9月14日（土）～10月19日（土） 全3回

会 場 公民館 第4・5集会室

参加者 40人+70人+45人=155人

日 時	内 容	備 考
9. 14 午後2時～4時	演題 生物としての人間と高齢期	宮岡 一雄 (明治大学教授)
10. 6 午前10時～正午	演題 高齢期の心とからだの健康	白鳥 金丸 (早稲田大学教授)
10. 19 午後2時～4時	話題 戦後ふっさっ子のうつり変わり	山崎 茂男 (福生珠算学校長)

寿ひろば

期 間 平成 3年 9月 7日 (土) ~12月 14日 全10回

午前10時~正午

会 場 公民館本館 野外ほか

参加者 25人×10回=250人

月 日	内 容	備 考
9. 7	オリエンテーション 自己紹介	話 し 合 い
21	私達の人生の歩み そのⅠ	"
10. 5	" そのⅡ	"
12	" そのⅢ	"
26	清巌院 柳山公園 中央公園	ふっさ見て歩き
11. 9	高齢期の生活と税について	持田 力 (税理士)
16	金剛寺 天寧寺 高麗神社 宮沢湖	バスツアーウエモ近隣再発見
23	我がまちよもやま話し	話 し 合 い
12. 7	在宅福祉と施設福祉の現状と今後	福祉事務所職員
14	寿ひろば忘年会	懇親 (睦会館)

*終了後は月3回(1回は歌おう会)で自主活動を実施するはこびとなった。

講座「自分史を書く」

期 間 平成 3年 9月 12日 (木) ~12月 5日 (木) 午前10時~12時

全10回

会 場 公民館本館

参加者 27人×10回=270人

月 日	テ ー マ ・ 内 容	講 師
9. 12	オリエンテーション・自分史とは	
19	文章づくり	
26	"	
10. 3	"	武 田 秀 夫
17	"	(私塾主宰)
31	自分史を綴る	
11. 14	"	
21	"	
28	"	
12. 5	まとめ、文章づくりへ向けて	

60歳からの生き方

期間 平成3年9月9日(月)～11月18日(月) 午後7時半～9時

会場 公民館本館

参加者 10人×10回=100人

月 日	内 容	講 師
9. 9	オリエンテーション	
23	「これまで」から「これから」へ	橋 本 孝 藏
30	家族とどう生きるか	川 辺 進
10. 7	年金の上手なもらい方	松 下 俊 政
14	高齢期の心とからだの健康	吉 野 チ エ
21	生きがい(趣味)	川 辺 進
28	生きがい(社会的)	"
11. 4	自分らしく生きる	
11	60歳からの生き方	
18	ま と め	

人生うたい語りの集い

月 日	内 容	会 場 参加者
11. 30 午後1時30分～4時	人生を綴る唄メドレー15曲、人生私の意見10人 アトラクション 演歌(橋本まさる作詞)と舞い	小ホール 180人

「寿市民ひろば」実行委員会

期間 平成3年6月27日(木)～11月27日(水) 全5回 午前10時～正午

会場 公民館本館

参加者 36人×5回=180人

月 日	内 容	備 考
6. 27	第1回実行委員会 当事業の実施計画案、企画づくり	市民グループ
7. 18	第2回実行委員会 各コースプロ集約、全体スケジュール	公民館 社会教育職員
8. 22	第3回実行委員会 広報・PR、つどい企画、役割分担	福祉部職員 シルバー職員
9. 19	第4回実行委員会 各コース開始状況、情報交換ほか	社協職員 以上
11. 27	第5回実行委員会 終回役割分担、全体の流れ、終了後	実行委員会構成

ワープロ教室Ⅰ

期 間 平成3年10月3日(木)～7日(月) 午後2時～4時 全5回

会 場 公民館本館

参加者 10人×5回=50人

内 容 ハンディタイプのワードプロセッサの基本操作と簡単な文章作成

講 師 築地 尚美(システム情報館)

高齢者ワープロ教室Ⅱ

期 間 平成3年12月4日(水)～9日(月) 午後2時～4時 全5回

会 場 公民館本館

参加者 5人×5回=25人

高齢者ワープロ教室Ⅲ

期 間 平成4年1月22日(水)～27日(月) 午後2時～4時 全5回

会 場 公民館本館

参加者 5人×5回=25人

やじきたハイキング

月 日	行 先	参 加 者
4. 8	五日市町小峰公園	47人
6. 10	埼玉県民の森	40人
9. 9	景信山・小仏峠	44人
12. 2	寄居五百羅漢・十二支守り本尊めぐり	63人
1. 29	都庁・新宿御苑	45人
3. 2	小室山から青梅梅郷	55人

平成4年度

『寿市民ひろば』

寿市民ひろば実行委員会

期 間 平成4年5月20日(水)～11月16日(月) 全5回

会 場 公民館

参加者 30人×5回=150人

月 日	内 容
5. 20	第1回実行委員会 最近の活動交歓、今回の計画について
6. 29	第2回実行委員会 各コース設定、広報・PRについて
7. 15	第3回実行委員会 各コース計画決定、運営分担について
8. 19	第4回実行委員会 全事業パンフ作成・配布、内容・進行確認
11. 16	第5回実行委員会 コース進行状況、歌い語りの集い企画

“寿”講演会

期間 平成4年9月26日(土)～11月21日(土) 全4回

会場 公民館

参加者 50人×4回=200人

月 日	演 題	講 師
9. 26	今「環境教育の重要性」について	宮岡 一雄(明大教授)
10. 10	映画上映と講演「友達のいる孤独」	稻木 淳(監督・脚本)
10. 24	まちの移り変わりと文化活動	山崎 茂男(珠算学校長)
11. 21	福生の教育と中学生海外派遣から	来住野和也(福生市教育長)

寿ひろば

期間 平成4年9月12日(土)～12月14日(月) 全10回

会場 公民館

参加者 35人×10回=350人

月 日	内 容	備 考
9. 12	自己紹介・ひろばの進め方	話し合い
19	わたしたちの人生の歩み	"
26	“寿うたおう会” ①	ピアニスト 山下やよい
10. 3	堂川端“永田・長沢”見て歩き	紹介案内 立川愛雄
17	かつて福生「福生村堂川端物語」より	著 者 森田七郎
24	“寿うたおう会” ②	ピアニスト 山下やよい
11. 14	探訪川越 旧日本の街並み再発見	視察研修バスツアー
21	懐かしの名画「ペテン師物語り」	VTR名画上映
12. 5	“寿うたおう会” ③	ピアニスト 山下やよい
14	忘年会 この1年と当事業を振り返り	懇親と話し合い

人生うたい語りの集い

開 催 日	内 容	参 加 者 会 場
11. 28 午後1時30分～4時	日本の春夏秋冬12曲メドレー、人生私の意見10人 アトラクション 市在住作詞家：橋本まさる作品披露	小 ホ ー ル 180人

高齢者活動リーダー研修会

期間 平成5年3月2日(火)～3月16日(火) 全3回

会場 公民館

参加者 35人×3回=105人

月 日	内 容	備 考
3. 2	カウンセリング入門	中村泰章(日本更生保護協会)
9	ふっさのボランティア活動	福生市社協ボランティアコーナー職員
16	データを読む・日本の高齢化	古谷野亘(都老人総合研究所社会学室長)

高齢者ワープロ教室Ⅰ

期 間 平成4年6月17日(水)～6月22日(月) 全5回
会 場 公民館本館
内 容 東芝ルポ80Fを使い、ワープロの基本を学ぶ
参加者 10人×5回=50人
講 師 システム情報館インストラクター

高齢者ワープロ教室Ⅱ

期 間 平成4年10月14日(水)～10月22日(木) 全5回
会 場 公民館本館
内 容 東芝ルポ95F等を使い、ワープロの基本を学ぶ
参加者 5人×5回=25人

講座「自分史を書く」

期 間 平成4年10月1日(木)～12月10日(木) 午前10時～12時 全10回
会 場 公民館本館
参加者 12人×10回=120人

月 日	テ ー マ ・ 内 容	講 師
10. 1	オリエンテーション・自分史とは	武田秀夫 (私塾主宰)
8	文章を読む～漱石の作品から	
15	〃	
22	〃	
29	〃	
11. 12	〃	
19	文章を書く	
26	〃	
12. 3	〃	
10	文章づくり・まとめ	

やじきたハイキング

月 日	行 先	参 加 者
4. 8	鳥居観音(金比羅山)	40人
7. 20	大樽峠から御岳山	29人
11. 16	奥多摩むかしみち	38人
1. 29	高尾山	26人
3. 16	青梅南丘陵～都立草花丘陵	38人

*雨天のため棒の折山(6月・9月)は中止

平成5年度

『寿市民ひろば』

寿市民ひろば実行委員会

期 間 平成5年6月23日（水）～11月17日（水） 全4回

会 場 公民館本館

参加者 20人×4回=80人

月 日	内 容
6. 23	第1回実行委員会 今年度事業計画、各コース設定・内容について
7. 20	第2回実行委員会 広報・PRについて、運営分担について
8. 25	第3回実行委員会 実施前確認及びダイレクトメール作業
11. 17	第4回実行委員会 各コース進行状況、合同催し・活動について

“寿”講演・懇親会

期 間 平成5年10月2日（土）～11月20日（土）

会 場 公民館本館

参加者 50人×3回=150人

月 日	内 容	講 師
10. 2	福生の自然と街の緑について	宮岡一雄（明治大学教授）
10. 23	間違えだらけの老人像 俗説と科学	古谷野亘（都老研室長）
11. 20	市長と語ろう！ わが街ふっさ	福生市長 石川彌八郎

語らいの広場

期 間 平成5年9月14日（火）～12月14日（火） 全8回

場 所 公民館本館及び野外ほか

参加者 30人×8回=240人

月 日	内 容	備 考
9. 14	この広場の進め方、自己紹介	話し合い
9. 21	私達の人生の歩み I	"
10. 5	野草見て歩こう	案内 佐藤文子（植物愛好者）
10. 20	動物愛護について	桐生啓治（東京農工大学教授）
11. 10	多摩再発見「小金井江戸博物館」	バスツアー
11. 16	私達の人生の歩み II	話し合い
11. 30	懐かしの名画劇場	メンバーVTRテープ収集家の提供
12. 14	「忘年会」わたしの1年	語らい、歌い、芸披露

語らいの広場うたおう会

期 間 平成 5年 9月28日～11月23日（火・水） 全 7回

会 場 公民館本館

参加者 25人× 7回=175人

月 日	内 容	備 考
9. 28		
10. 6	童謡・唱歌を中心に、人生思い出の歌、懐かしい曲の数々を歌い上げる	指導者 小田切洋子 (ふっさ 第九合唱ピアニスト)
10. 21		
10. 26		
11. 9	11月26日の「人生うたい語りの集い」発表にむけて練習する。	メンバーからの希望曲を中心に合唱に親しむ
11. 17		
11. 23		

学校ごっこ

期 間 平成 5年 9月11日（土）～12月11日（土） 全 5回

場 所 福生珠算学校ほか市内

参加者 30人× 5回=150人

月 日	内 容	備 考
9. 11	私の子供の頃、父のはなし	話し合い（お弁当持参）
10. 16	福生の小貫政之助画伯遺作鑑賞ツアー	説明案内 柳家つばめ画伯
11. 13	数遊び、国語読本	昔の学校教材持ち寄り
11. 27	「ふるさとを語ろう」	三田鶴吉（ニュース0425「多摩川は教科書だ」執筆中）
12. 11	福生の稻作上映、今年を振り返る	8ミリ上映、話し合い

人生うたい語りの集い

開 催 日	内 容	参加者会場
11. 26 午後 1時30分～4時	人生私の意見10人 人生を唄おう・カルメン合唱デュエット 「福生恋うた」橋本まさる作品披露（福生在住作詞家）	小 ホ ー ル 150人

講座『自分史を書く』

期 間 平成5年10月7日(木)～3月3日(木) 午前10時～12時 全10回

会 場 公民館本館

参加者 20人×10回=200人

月 日	内 容	講 師
10. 7	オリエンテーション・福生の歴史Ⅰ	立川 愛雄 (郷土史研究家)
14	福生の歴史Ⅱ	
21	自分史とは	武田秀夫(私塾主宰)
11. 11	皆の作品を読み合う	
18	皆の作品を読み合う	
25	皆の作品を読み合う	
12. 2	皆の作品を読み合う	
9	皆の作品を読み合う	
2. 3	文集づくり(校正)	
3. 3	まとめ(最終校正)	

高齢者ワープロ教室

期 間 平成5年11月11日(木)～12日(金)

午後1時30分～4時 全2回

会 場 公民館本館

内 容 東芝ルポ98Vを使い、ワープロの基本を学ぶ

参加者 10人×2回=20人

講 師 Tスクエア インストラクター

やじきたハイキング

月 日	内 容とコース	参 加 者	講 師
4. 27	トトロの森から多摩湖畔まで	29人	吉野チエ 吉原寿子 美野善光 藤野二郎
7. 2	二窪高原	32人	
9. 29	伊豆ヶ岳	雨天中止	
12. 7	旧正丸峠	40人	
1. 19	川越七福神めぐり	61人	

平成6年度

『寿市民ひろば』

寿市民ひろば実行委員会

期 間 平成6年7月13日（水）～11月10日（木） 全4回

会 場 公民館

参加者 25人×3回+60人×1回=135人

月 日	内 容
7. 13	最近の活動の交換、昨年の事業を顧みて、今回の事業活動計画
8. 3	今年度事業各コース計画、広報・P R、運営分担等について
8. 30	実施前確認及びダイレクトメール作業（3館3コース）
11. 10	市長懇談会、人生うたい語りの集い打ち合わせ

寿講演・懇談会

期 間 平成6年10月1日（土）～11月17日（木） 全3回

会 場 公民館

参加者 60人×3回=180人

月 日	内 容	備 考
10. 1	寿講演会Ⅰ『福生のまちづくりに思うこと』	宮岡一雄（明治大学教授）
10. 15	〃 Ⅱ『新発見！白鳳時代の菩薩立像＝清岩院』	斎藤経生（女子美大教授）
11. 17	寿懇談会 『市長と語ろう“わが街ふっさ”』	石川彌八郎 市長

語らいの広場

期 間 平成6年9月20日（火）～12月13日（火） 全11回

会 場 公民館本館

参加者 30人×11回=330人

月 日	内 容	備 考
9. 20	オリエンテーション 広場の進め方 自己紹介	話し合い
9. 27	高齢期の栄養学	柏原典雄 (雪印乳業主席企画員・農学博士)
10. 4	現代家族問題について Ⅰ	古谷野亘（都老人総合研究所）
10. 12	〃 Ⅱ	話し合い
10. 18	市内見て歩き（清岩院ほか）	立川愛雄（市内文化財研究家）
10. 25	福生市の福祉計画について Ⅰ	仮称福祉センター開設準備室長
11. 8	〃 Ⅱ	福祉部厚生課長
11. 16	東京・多摩、近県再発見（羽田→横浜ベイ）	バスツアー
11. 22	“今、私はこのことを大切に生きる”	話し合い交歓
11. 29	調理実習「私の健康食づくり」	貫井恵美子（栄養士）
12. 13	忘年会「この1年をふりかえり」	於 陸会館

若葉コーラス

期 間 平成 6年 9月22日（木）～12月 2日（金） 全 8回

会 場 公民館本館（音楽室）

参加者 30人×8回=240人

若葉コーラス合唱講習（内 容 等）		指揮者ピアニスト
練習曲等 今回この講習は、春・夏・秋・冬四季折々の歌をうたい上げようと実施。人生うたい語りの集い発表		合唱指導 小田切洋子（ピアニスト）

人生うたい語りの集い

開 催 日	内 容	参 加 者
12. 2 午後1時30分～4時	I部 人生わたしの意見10人 人生を歌おう 春夏秋冬 ゲスト 女声3部合唱 II部 講演会「人生って支えあいっこ」俳優 牟田悌三 病気のため中止	200人

講座『自分史を書く』

期 間 平成 6年10月20日（木）～3月 9日（木）午前10時～12時 全 8回

会 場 公民館本館

参 加 者 22人×8回=176人

月 日	内 容	講 師
10. 7	オリエンテーション・自分史とは	私塾主宰 武田 秀夫
27	文章の書き方	
11. 10	皆の作品を読み合う	
17	皆の作品を読み合う	
12. 1	皆の作品を読み合う	
8	皆の作品を読み合う	
2. 9	文章づくり・校正	
3. 9	まとめ・文集発行	

高齢者ワープロ教室

期 間 平成 7年 1月25日（水）、26日（木）

午前9時30分～午後1時 全 2回

会 場 公民館本館

内 容 東芝ルポ98vを使い、ワープロの基本を学ぶ

参 加 者 10人×2回=20人

講 師 Tスクエア インストラクター

やじきたハイキング

月 日	内 容 と コ ー ス	参 加 人 数	講 師
4. 15	奥多摩湖畔倉戸山周辺	49人	吉野チエ
6. 14	相模湖から石老山	雨天中止	吉原寿子
9. 28	浅間嶺	雨天中止	美野善光
11. 30	浅間嶺	30人	藤野二郎
1. 31	奥武藏高山不動から関八州見晴台	31人	
3. 14	青梅丘陵を経て梅の公園	39人	

平成 7 年度

『寿市民ひろば』

寿市民ひろば実行委員会

期 間 平成 7 年 6 月 28 日 (水) ~ 11 月 15 日 (水)

会 場 公民館集会室

参加者 20 人 × 3 回 + 70 人 × 1 回 = 130 人

月 日	内 容
6. 28	最近の活動の交換、昨年の事業を顧みて、今回の事業活動計画
7. 26	今年度事業各コース計画、広報・P R、運営分担等について
8. 30	ダイレクトメール発送作業、約 8000 通 (3 館 3 コース)
11. 15	「市長懇談会」及び「人生うたい語りの集い」打ち合わせ

寿講演・懇談会

期 間 平成 7 年 10 月 14 日 (土) ~ 11 月 15 日 (水) 全 3 回

会 場 公民館

参加者 50 人 × 3 回 = 150 人

月 日	内 容	備 考
10. 14	まちづくりに思う「我がまちの生涯学習」	宮岡一雄 (明治大学教授)
27	明治の民衆憲法から戦後 50 年に思う	新井勝紘 (国立歴史博物館)
11. 15	懇談会 『市長と語ろうわが街ふっさ』	石川彌八郎市長

語らいの広場

期 間 平成 7 年 9 月 12 日 (火) ~ 12 月 12 日 (火) 全 11 回

会 場 公民館本館

参加者 30 人 × 11 回 = 330 人

月 日	内 容	備 考
9. 12	オリエンテーション 広場の進め方 自己紹介	話し合い
19	私達の人生の歩み (戦争体験 その I)	語らいの広場
26	福生市福祉センター開館による見学会	見学研修
10. 3	外国人の日本生活への支援について	高橋登志江 (ボランティア)
17	ふっさ「名木めぐり」 その①	案内 青山次男
24	戦後ふっさの社会教育の歩み	田村光男 (文化財委員)
31	外国人の目から見た日本	笛本エペリン (ボランティア)
11. 14	ふっさ「名木めぐり」 その②	案内 青山次男
20	多摩、近県再発見「秩父・三峰」	バス視察
29	私達の人生の歩み (戦争体験 その II)	語らいの広場
12. 12	年末懇親「この 1 年を振り返り」	忘年会

若葉コーラス

期 間 平成 7 年 9 月 14 日 (木) ~ 11 月 30 日 (木) 全 10 回

会 場 公民館本館 (音楽室)

参加者 30 人 × 10 回 = 300 人

若葉コーラス合唱講習 (設定内容)	指揮者 ピアニスト
練習曲各種 人生を綴る懐かしい曲、思い出の歌、童謡・唱歌と四季折々の唄を実施。	合唱指導 小田切洋子
“人生うたい語りの集い” 成果の発表	(同ピアニスト)

人生うたい語りの集い

開 催 日	内 容	参 加 者
12. 2 午後 1 時 30 分 ~ 4 時	I 部 人生わたしの意見 (5 人) 人生を歌おう みんなで歌おう II 部 講演会「心とからだの健康そして素晴らしい人生を」 講師 医学ジャーナリスト 松井寿一	200 人

講座『自分史を書く』～私の戦争体験

期 間 平成 7年 5月25日（木）～6月29日（木）午前10時～12時 全 8回

会 場 公民館本館

参加者 23人× 6回=138人

月 日	内 容	講 師
5 . 25	オリエンテーション・私の戦争体験	私塾主宰 武田 秀夫
6 . 1	文章の書き方 1	
6 . 8	文章の書き方 2	
6 . 15	皆の作品（戦争体験）を読み合う 1	
6 . 22	皆の作品（戦争体験）を読み合う 2	
6 . 29	まとめ・文集作成について	

平成 8 年度

『市民ひろば』

市民ひろば実行委員会

期 間 平成 8年 6月26日～11月13日 全 4回

会 場 公民館

参加者 20人× 3回+45人=105人

月 日	内 容
6 . 26	最近の活動交換、昨年の事業を顧みて、今回の事業活動概要
7 . 24	今年度事業各コース計画、広報・P R、運営分担等
8 . 27	実施前確認及びダイレクトメール作業（3館3コース）
11 . 13	助役懇談会、人生うたい語りの集いの打ち合わせ

講演・懇談会

期 間 平成 8年10月 5 日～11月14日 全 3回

会 場 公民館

参加者 50人× 3回=150人

月 日	内 容	備 考
10 . 5	寿講演会 I 『科学おもしろ話し』	長谷川貞夫（東京学芸大学教授）
10 . 26	寿講演会 II 『ふっさの文化』ビデオ&トーク	館 盛和（T C N役員）
11 . 14	寿懇談会 『助役と語ろう我がまちふっさ』	福生市助役

語らいの広場

期間 平成8年9月18日～12月3日 全11回

会場 公民館本館

参加者 30人×10回+50人=350人

月 日	内 容	備 考
9. 18	オリエンテーション、広場のすすめ方、自己紹介	話し合い
9. 25	私達の人生の歩みⅠ 「各々の60才を考える」	語らいの広場
10. 1	『ふっさ地名考』、今後の運営	紹介：立川愛雄（文化財研究家）
10. 8	市内史跡めぐり（その①）福生地区	見て歩き 案内：同
10. 15	私達の人生の歩みⅡ 「各々の60才、そして…」	語らいの広場
10. 22	市内史跡めぐり（その②）熊川地区	見て歩き 案内：同
10. 29	最近の我がまちの動向（様子）を語るⅠ	語らいの広場
11. 12	最近の我がまちの動向（様子）を語るⅡ	語らいの広場
11. 19	福生市における高齢者福祉について	在宅福祉課長
11. 26	近県再発見ツアー『忍野八海』見学	バスツアー
12. 3	料理実習「楽しい料理=まつり寿司」	指導：貫井恵美子（栄養士）

若葉コーラス

期間 平成8年9月19日～11月28日 全11回

会場 公民館本館

参加者 25人×10回+50人=300人

若葉コーラス合唱講習（内 容 等）	指導・ピアニスト
練習曲各種 人生を綴る懐かしい曲、思い出の歌、童謡、唱歌、四季折々の唄、手話で歌う唄等実施。	指導ピアノ 小田切洋子
ミニコンサート 日本の名曲より、3つの汽車のうた 10月24日 ピアノ演奏、「虹の村」より	出 演 林 あづさ 山下やよい 森田麻友美 小田切洋子 ナレーション 宮崎美智子
“人生うたい語りの集い”にむけ発表練習実施。	指導ピアノ 同 上

人生うたい語りの集い

開 催 日	内 容	参 加 者
8. 11. 30 午後1時15分～3時30分 (市民会館小ホール)	I 部人生わたしの意見 私のたからもの いじめについて されど人生さらば人生 人生25年の節目 人生をうたおう 若葉コーラス コール白梅 II 部(吉増剛造氏傷病のため企画変更)：音楽の効用 〔ビブラホン、ピアノ演奏〕花のワルツ(チャイコフスキイ)、トルコマーチ(モーツアルト)ほか	180人

講座『自分史を書く』

参加の回数

期間 平成8年11月28日(木)～3月27日(木) 午前10時～12時 全5回

会場 公民館本館

参加者 14人×5回=70人

月 日	内 容
11. 28	オリエンテーション・講座説明・自己紹介
12. 5	作品を読み合う1
12. 12	作品を読み合う2
2. 20	作品を校正しよう
3. 27	まとめ・懇談会

8. 公民館のつどい

昭和57年にはじまった「公民館のつどい」は、それ以前に実施されていた公民館利用者で組織される公民館利用者懇談会を中心とした「公民館大会」の新たな市民学習・交流の場として実施されてきた。

「公民館のつどい」に変わった背景には、公民館建設当時の充実した利用者・市民の横のつながりがだんだんと薄れてきた当時の状況から、公民館側から、市民・地域活動の自治的な在り方と、自分達の生活を地域社会・公民館と結びつけていく知識や力を、公民館と市民が共に創り上げていくといった目的があったからである。

この「公民館のつどい」は現在16回を重ねてきたが、つどいの趣旨である

- ☆出会い、知り合い、交流していくために、各分野をこえた交流の場としていきたい。
- ☆公民館で活動することの意味を考えていきたい。
- ☆活動し、交流しあう中で、生活や地域の課題を共有化していきたい。
- ☆つどいがひとつのきっかけとなって、後に横につながりあえる場を持ち続けていきたい。

は、第1回のつどいより、今なお確認され根底に根付いているのである。

ここで、この10年の「つどい」をふりかえってみたい。

まず、ここ10年での「つどい」の形態が変化してきたことが挙げられる。

1 昭和57年～昭和61年

第1回から第5回のつどいは、「学習」「交流」など様々なものが混在していた形態

2 昭和62年～平成5年

第6回から第12回のつどいは、「話し合い」「学

習会」形式を中心とした形態。

3 平成6年～平成9年

第13回から第16回のつどいは、より深く学習するための「分科会」をさらに重視し、時間が多くなるとともに、全体会が交流会から学習の色の濃い「講演会」を取り入れた形態へと変化してきたのである。

実際この10年は、2・3の重要な時期にあたるわけで、今後の「つどい」の在り方を左右する変化であった。

次にここ10年で変わってきた点を上げてみたい。
☆平成4年度までは、7月に実施されていたが、平成5年度からは9月に実施されるようになった。このことは、つどい実施までの準備期間が短いことが主な理由であった。それに伴い、実行委員会の回数が平成4年度までの3～5回から、平成5年度以降は8～9回に増えた。

☆つどい当日での対応であるが、平成4年度までは小さな子どもがいる市民のために保育室を開設していたが、平成5年度以降はおこなわれなくなった。

また、平成7年度から情報の保障という視点から、手話通訳をつけることになった。

年度	62	63	元	2	3	4	5	6	7	8
参加者数	160	200	266	300	307	450	211	333	226	214

また、実際は公民館開館20年の枠外ではあるが、平成9年度の「第16回公民館のつどい」についてふれてみたが、「つどい」との同日開催という形で「公民館開館20周年記念事業～屋外交流会～」が実施されたことも見逃せない。

この「公民館開館20周年記念事業～屋外交流会～」は、ふだん様々な活動をしている利用者の分野をこえた交流の目的で公民館前庭を使って盛大に実施されたのである。

演示では社交ダンス・フラダンス・沖縄芸能・コーラス・吹奏楽などが、展示では、パッチワーク・公運審が、模擬店ではクッキーや手作りおやき・バターロールパンなどが、また、お茶をたてたりした。この記念事業には、公民館利用サークルを中心となって、今まで公民館に関わったことのない市民にも参加してもらえるよう実施した。

その後のつどい実行委員会反省会の中で、活発な意見が出たが、この年のつどい・20周年記念事業のような、各分野をこえた交流が今後も実施できなかという意見も多数出された。

このことを受けて、今後の「つどい」の在り方について話し合われようとしている。

公民館で「つどい」を行うことの目的・意味は何か？市民と公民館の関係は？

生涯学習、受益者負担。社会教育が公民館が注目を浴びている現在、あらためて「つどい」そのものを見直す時期にさしかかってきたといえよう。



公民館のつどい

7/8 sun

分科会 12:30～

交流会 3:15～



★分科会 「親おむつから国が世界へ子どもはおむちたちの未来」 「友のつどい」ビデオ上映 「いかずかねあい」「だいあい！」 「ひぐらしのない」 言葉を語れるアドバイスするには？ デザートアートで何だろう？ D種青色と共に歩むまちづくり 「誰でも参加 無限・無限・無限評議」ハイサブリのキャラクタードラマ 「子どもたちに、おむちたちに贈られるものは、企画展の実績、まちづくり企画考える」 外国人からみた福生 「高齢者と云百姓のむすび」

*資料用 (詳しくは公民館まで)

*会場・料金等 お問い合わせ下さい

第15回 公民館のつどい

全体会

(10:00～12:00)

講演会 「暮らしの中の憲法」
—憲法50年を記念して—
講師 池上洋進氏(元NHK総合司会・元NHK司会)

■手話通訳がつきます

アトラクション
尺八と琴の合奏

展示 (9:00～16:30)

どこから来たの配達弁当

どこへ行くの中学校給食

分科会 (13:30～16:30)

テーマ別に分れて話し合う場です。
お気軽にご参加ください。

■ 手話通訳がつきなれば公民館へ

・子ども・大人・育ちたい

・障害者と共に歩むまちづくり

・高齢化社会を考える

・これからどうなる私たちの音楽活動

・やっとできた「ふくさ女性プラン」

・外国人から見た「国際交流」って？

日時 9月15日(祝)

会場 福生市公民館 (牛浜駅下車徒歩5分・市民会館)

主催 公民館のつどい実行委員会

問合せ 福生市公民館 (電話 52-1711・FAX 30-2511)

公民館のつどいにかかわって

第16回公民館のつどい

実行委員長

有井 節子



公民館がオープンして20周年を迎えるおめでとうございます。

私が公民館と関わり合ったのは、市主催の市制20周年記念事業「春の第九」に参加したのが初めてでした。第九演奏も平成9年3月で第5回を数えました。

オペラ「カルメン」、ミュージカル「玉の都」などのTAMAらしいふの行事にも参加いたしました。

その間「第九」の仲間と混声コーラスのサークルを作り、今まで続いています。

「公民館のつどい」に参加したのは、第12回公民館のつどいの全体会の後のアトラクションに、「第九」の有志で「カルメン」より2・3曲歌ったのが初めてでした。

翌年、公民館利用者連絡会が発足し、私達のサークルも仲間に入れていただき、25団体ほどのサークルの参加で利用者連絡会が歩き始めました。

公民館本館利用者連絡会や他の公民館利用サークルで公民館のつどい実行委員会をつくり、全体会・分科会と二部構成で開催される「つどい」が数年間続いております。

平成9年度は、公民館開館20周年を記念して多数の利用サークルの参加を募り、実行委員会で話し合いが続けられました。

平成9年度のつどいの特徴は、公民館をふだん利用していない人達にも、公民館に目を向けてもらい、足を止めてもらおうということで、分科会は従来通りに、全体会の集いには屋外での交流会

を行おうということで、たくさんの参加を呼びかけました。

歌・演奏・フラダンス・社交ダンス・演芸・模擬店・お茶会・展示など、当日に関わりをもってくださった方々は当日の天気のことで心配だったようですが、なんとか持ちこたえ、また、屋外交流会では足を止めてくださった方々も多く、成功だったと思います。

もちろん、反省すべき点は多々ありますが、来年度に向け、よりよいつどいが行われるよう、話し合いが始まっています。

福生に住んで26年間、知人が一人もいない中で、子どもの学校のPTA役員、地域の行事への参加、体育館に通ったりで知人もたくさんできました。

今では、故郷にいた時より多いくらいです。公民館での人の出会いは、歌を歌うということはもちろんですが、つどいや利用者連絡会で知り合った方々から、とても多くの事を勉強させていただきました。

趣味や芸事に打ち込んでいる人、女性の問題を勉強している人、海外から日本に来て迷っている人に手をさしのべている人、障害者の立場から社会をしっかり見ている人、高齢者の集まり、小さな子ども達と共にいろいろな問題に取り組んでいる若いお母さん。

公民館は、趣味を広げる場であり、勉強の場であります。

公民館を利用していない人達、公民館報に目を通してみて下さい。そして足を向けてください。きっとすばらしい出会いがあると思います。

私自身の公民館との関わりを思い出したから書いてみました。

ここまで私を育てて下さった公民館に、そして仲間に感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも私にできることを探しながら頑張りたいと思っています。

第6回 公民館のつどい（昭和62年7月5日（日））

分科会（13:00～15:15）～学習会（5分科会）

分科会 1 公民館のかしこい利用法は？

- 2 ほっとけない子育て～あなたはどうしていますか～
- 3 私たちの街に音楽を育てよう
- 4 P T Aで何ができるの～子どもたち、いきいきしていますか～
- 5 障害者と共に歩むまちづくり

全体会（15:30～16:30）～分科会報告会後、助言者がまとめ

参加者 160人

～実行委員会日程～

月 日	テ ー マ	内 容
5. 8	第1回実行委員会	予算概要の説明、つどいイメージの出し合い
22	つどいを考える会	つどいの趣旨の説明
6. 4	第2回実行委員会	話し合いテーマ
18	第3回 "	当日の時間設定
7. 2	第4回 "	参加予定者数・会場・役割分担の最終確認
5	公民館のつどい	つどい当日
13	つどいをふりかえる会	

分科会の構成

分 科 会 名	司 会	記 録	レ ポ ー タ ー	助 言 者	会 場
公民館のかしこい 利用法は？	公 民 館	公 民 館	橋 本 洋 (福生スティング) ダンスクラブ	島 田 修 一 (中央大学)	第3集会室
ほっとけない子育て ～あなたは どうしていますか～	田 中 加 代 (まつぼっくり) 紙粘土の会	梶 谷 克 子 (まつぼっくり)	本 田 マ リ 子 (まつぼっくり)	高 崎 伊 平 (元小学校長)	視聴覚室
私たちの街に 音楽を育てよう	山 下 典 男 (福生混声合唱団)	坂 本 久 子 (市民コーラス)	秦 恵 子 (市民コーラス)		音 楽 室
P T Aで何ができるの ～子どもたち、 いきいきしていますか～	原 文 子 (EA EF)	熊 沢 和 枝 (EA EF) 伊 藤 則 子	匿名でレポートあり	後 藤 重三郎 「みんなでつくる P T A」著者	第4集会室
障害者と共に歩む まちづくり	関 公 規 (にじの会)	小 林 真 志 (バッカス)		深 沢 智 子 (三鷹はばたけ 共同作業所)	第1・2 集会室

第7回 公民館のつどい（昭和63年7月10日（日））

分科会（12：30～15：00）～学習会（7分科会）

分科会 1 P T Aで何ができるのパートⅡ～P T Aは和気あいあいでいいの？！

2 今、あなたのサークルで一番の問題は？

3 食べものといのち

4 障害者と共に歩むまちづくり

5 今、女たちは変わろうとしている～ストップ・ザ・性差別～
(女のつどい)

6 今、女たちは変わろうとしている～ストップ・ザ・性差別～
(男も子育てを考えよう)

7 私たちの街に音楽を育てようパートⅡ～アマチュア活動、音楽と文化、感動の世界へ～
ティーパーティ（15：30～16：30）～ダンス、歌等。クッキーづくり（にじはら、子どもクッキング
クラブによる）

参加者 200人

～実行委員会日程～

月 日	テ ー マ	内 容			
5. 26	第1回実行委員会	予算説明、当日の時間設定、全体会・分科会の検討			
6. 8	第2回 "	分科会のテーマ決定、イメージテーマ決定			
22	第3回 "	分科会の内容決定、全体会、広報の内容決定			
7. 6	第4回 "	部屋割り、最終確認			
10	公民館のつどい	つどい当日			
25	つどいをふりかえる会	つどいをふりかえる話し合い			

分科会の構成

分科会名	司会	記録	事例発表者	助言者	会場
P T Aで何ができるのパートⅡ ～P T Aは、和気あいあいで いいの？！～	秋山典子 (EA EF)	熊沢和枝 原文子 (EA EF)	伊藤則子 (EA EF) 利根川節子	前橋弘子 (全国P T A 問題研究会)	第1・2 集会室
今、あなたのサークルで 一番の問題は？	小林真志 (バッカス)	大石安子 (社交ダンス アカデミー)			第5 集会室
食べものといのち	田中加代 (まつぼっくり)	梶谷克子 (まつぼっくり)		清水永一 (有機農業)	第4 集会室
障害者と共に歩むまちづくり	関公規 (にじの会)	増田公子 (ひまわり 作業所) 加藤紀子 出口泰子 (のびる会)		川田昇 (こころみ 学園園長)	第3 集会室
今、女たちは変わろうとしている ～ストップ・ザ・性差別～ (女のつどい)	石橋初子 (福生おんな くらぶ)	宮本一美 (福生おんな くらぶ) 菅谷寿美 (東京婦人 問題協議会)		鎌仲ひとみ (映画監督)	視聴覚室
今、女たちは変わろうとしている ～ストップ・ザ・性差別～ (男も子育てを考えよう)	田村正秋 (ダメおやじの会)	荒居直人 (ダメおやじ の会)		岡本富郎 (白梅短大教授)	視聴覚室 第6・7 集会室
私たちの街に音楽を育てよう パートⅡ ～アマチュア活動、音楽と文化、 感動の世界へ～	坂戸美沙子 (福生市民 コーラス) 山下典男	伊東律子 (福生市民 コーラス)	大塙眞司 (昭島コール アカデミー) 鳥居由幸 (音連)	藤沢政光 (目黒三中校長)	音楽室

第8回 公民館のつどい（平成元年7月9日（日））

分科会（12：30～15：00）～学習会（8分科会）

- 分科会 1 カラフルに話したいことがいっぱい
- 2 女のつどい
- 3 自分の時間持っていますか
- 4 あなたのサークルってどんなサークル
- 5 高齢者の活動と公民館
- 6 障害者と共に歩むまちづくり
- 7 福生のまちとくらしを考える
- 8 みんなのPTAにするにはどうしたらいいの

ティーパーティ（15：30～16：30）～分科会報告会、クッキー配布、演示等

参加者 266人

～実行委員会日程～

月 日	テ　ー　マ	内　　容		
5. 22	第1回実行委員会	つどいの趣旨説明、日程と時間帯決定		
6. 5	第2回 "	分科会概要決定		
7. 1	第3回 "	参加人数の集約と会場の決定		
9	公民館のつどい	つどい当日		
17	つどいをふりかえる会			

分科会構成

分 科 会 名	司 会	記 錄	事 例 発 表 者	助 言 者	会 場
カラフルに話したい ことがいっぱい	中村 絹江	斎藤 時子	片小田・佐藤 中村・宇都宮 斎藤・上野	藤田祐幸 (慶應大学物理学教室)	第3 集会室
女のつどい	萩原みどり	中川キミ子 石橋 初子		船橋邦子 (フリーライター)	視聴 覚室
自分の時間 持っていますか	関根 和美	梶谷 克子 村松	小田切・滝沢 川久保	久田 恵 (フリーライター)	音楽室
あなたのサークルって どんなサークル	伊東 静一 (職員)	久保 晴司		重本弘子 (東村山市の社会教育 を進める会代表)	第1 集会室
高齢者の活動と公民館	立川 愛雄	重見 通明	川辺 進		第6・7 集会室
障害者と共に 歩むまちづくり	高橋 邦彦 (職員)	伊藤朕賀子		関公規 (羽村養護学校教諭)	第5 集会室
福生のまちと くらしを考える	市川 勝彦	岡本佐代子		斎藤修 (高校教諭)	第4 集会室
みんなのPTAにする にはどうしたらいいの	秋山 典子	伊藤 則子	石川 美喜子	前橋弘子 (調布PTA 問題研究会)	第2 集会室

第9回 公民館のつどい（平成2年7月8日（日））

テーマ 「つたえたい、わたし発メッセージ」

分科会（12：30～15：00）～学習会（10分科会）

- 分科会 1 子どもは私たちの未来、紙おむつから偏差値教育へと
- 2 女のつどい「さわらないでそんなこときらい」
- 3 どうしたらいいの？教育を語れるPTAにするには
- 4 サークルって何
- 5 障害者と共に歩むまちづくり
- 6 誰でも参加 脱ゴミ地獄 徹底討論
- 7 4年目のチェルノブイリ
- 8 福生のまちとくらしを考える
- 9 外国人から見た福生
- 10 高齢者と公民館のむすびつき

交流会（15：30～16：30）～分科会報告会、コント（バッカス）、クッキー配布（にじはら、子ども クッキング）

参加者 300人

～実行委員会日程～

月 日	テ 一 マ	内 容
5. 23	第1回実行委員会	つどいの趣旨説明、日程と時間帯決定
6. 6	第2回 "	分科会概要決定
7. 2	第3回 "	参加人数の集約と会場の決定
8	公民館のつどい	つどい当日
19	つどいをふりかえる会	反省会

分科会構成

分 科 会 名	司 会	記 録	事 例 発 表 者	助 言 者	会 場
子どもは私たちの未来、紙おむつから偏差値教育へと	秋山 典子	中根 浩 (職員)	岩崎 節子	菅原 宣夫 (小学校教諭)	第2集会室
女のつどい「さわらないでそんなこときらい」	石橋 初子	黒木まゆ美 関根 京子		内藤 和美 (昭和女子短大)	福祉会館 視聴覚室
どうしたらいいの？教育を語れるPTAにするには	伊藤 則子	大塚 京子	国近 隆子 (5小PTA)	後藤 重三郎 (国学院大講師)	音楽室
サークルって何	松沢 英二	松沢 英二			福祉会館 第1集会室
障害者と共に歩む まちづくり	柳 正	高橋 邦彦 (職員)	大森 富栄 大森 信幸		第5集会室
誰でも参加 脱ゴミ地獄 徹底討論	小沢 未里	小林 米吉		浦島 裕二 (日本消費者連盟ゴミ部会)	第6・7 集会室
4年目のチェルノブイリ	中村 絹江	堀尾まさ枝		吉沢 弘 (チェルノブイリ救援募金)	第3集会室
福生のまちと くらしを考える	遠藤 洋一	遠藤 洋一		斎藤 修 (都立坪島高校教諭)	第1集会室
外国人からみた福生	秋山美左江		白崎 アニー 笹本 エバリン		視聴覚室
高齢者と 公民館のむすびつき	立川 愛雄	東 芳行 (職員)			福祉会館 和室

第10回 公民館のつどい（平成3年7月7日（日））

テーマ 「つたえたい、わたし発メッセージ」

分科会（12：30～15：00）～学習会（7分科会）

分科会 1 高齢者の活動と公民館

2 女のつどいパネル＆トーク

3 何を食べたらいいの？食教育の重要性

4 未来をつくるのは私たち

5 どうしたらいいの？教育を語れるPTAにするには

6 外国人から見た福生

7 障害者と共に歩むまちづくり

交流会（15：30～16：30）～分科会報告会、アトラクション（マジック～職員 高橋、タップダンス～主催講座の有志、バンド～中学生バンド、うた～全員で）

*クッキー・つまみなどの飲食物あり

参加者 307人

～実行委員会日程～

月 日	テ ー マ	内 容
5. 22	第1回実行委員会	趣旨説明、予算、日程と時間帯、今後の準備日程
6. 5	第2回 "	分科会概要決定、全体テーマ決定、保育について
22	第3回 "	参加人数の集約と会場の決定、交流会内容決定
7. 7	公民館のつどい	つどい当日
15	つどいをふりかえる会	

分科会構成

分 科 会 名	司 会	記 録	事例発表者	助 言 者	会 場
高齢者の活動と公民館	川辺 進	井上トキ子 佐瀬ふじ江	立川 愛雄		第6・7 集会室
女のつどい パネル&トーク	中川キミ子 大石 時子	宍戸 夏子 梶谷 克子		船橋 邦子 (女性学研究者)	音楽室
何を食べたらいいの？ 食教育の重要性	山根トミ江 松山千恵子	伊藤美知子 田代久美子	山下 和代	安藤 まち子 (栄養士)	第1・2 集会室
未来をつくるのは 私たち	佐藤 裕美	斎藤 時子		山根 雅子 (R-DAN)	視聴 覚室
どうしたらいいの？ 教育を語れる PTAにするには	伊藤 則子	大塚 京子	井口 みさを 五十嵐婦美子	後藤 重三郎 (国学院大講師)	福祉 会館
外国人からみた福生	平野 裕子	飯岡 一文			第4・5 集会室
障害者と共に歩む まちづくり	関 公規	中村けい子	小林 由美子 すみれの家		第 3 集会室

第11回 公民館のつどい（平成4年7月12日（日））

テーマ 「語り合おう！みんなの思い」

分科会（12：30～15：00）～学習会（9分科会）

分科会 1 公民館についてフリートーク

2 障害者と共に歩むまちづくり

3 子どもの健康と学校給食

4 高齢者と公民館

5 世界まるかじり

6 自主サークルと保育

7 わたしたちとゴミ問題

8 たりてますか、子どもの勉強量

9 楽しくサークル活動するために

手作りコーナー（10～11）～パネルシアターづくり、ステンドグラスづくり

交流会（15：15～16：30）～分科会報告会、マジックショー（職員 高橋）、フリートーキング

参加者 450人

～実行委員会日程～

月 日	テ　ー　マ	内　容
5. 7	第1回実行委員会	つどい構想、日程、会場、予算について
21	第2回 "	分科会数及び担当、交流会、テーマ、保育について
6. 4	第3回 "	分科会内容、交流会内容について
18	第4回 "	交流会、ポスター、チラシについて
7. 2	第5回 "	会場決定、最終確認
12	公民館のつどい	つどい当日
20	つどいを振り返る会	つどいの反省及び今後について

分科会構成

分科会名	司会	記録	事例発表者	助言者	会場
公民館について フリートーク	杉山 行男	福岡 謙二	中村 忠規		福祉会館 視聴覚室
障害者と共に 歩むまちづくり	柳 正	大和田玲子		石川 左門 (東京進行性筋萎縮症 協会理事長)	視聴覚室
子どもの健康と 学校給食	山下 和代	伊藤美知子	鷲田 柔子 浜中 順 佐藤 洋子 星田貴美恵		福祉会館 第 2 集会室
高齢者と公民館	立川 愛雄	永井 栎美 佐藤ふじ江	川辺 進		第 6・7 集会室
世界まるかじり	伊藤由美子	高橋由美子	高橋由美子	飯岡 一文 (元大使館職員)	第 4・5 集会室
自主サークルと保育	伊組 恵美 木本 薫	鈴木 寿子	滝下 幸子	片桐 純子 (国分寺市光公民館 保育者)	福祉会館 第 1 集会室
わたしたちとゴミ問題	佐渡 裕美	堀尾まさえ	西村 安栄	田島 喜代恵 (日の出の自然を 守る会)	第 3 集会室
たりてますか、 子どもの勉強量	伊藤 則子	大塚 京子	吉崎 賴子	平湯 紘一 (雑誌「母と子」 編集長)	音楽室
楽しくサークル 活動するために	大石 安子	遠山 時市		小山 安彦 (話し方コミュニケー ションコンサルティ ング所長)	第 1・2 集会室

第12回 公民館のつどい（平成5年7月11日（日））

テーマ 「出会いでかける虹の橋」

分科会（12：30～15：00）～学習会（6分科会）

分科会 1 障害者と共に歩むまちづくり

2 地域と共に生きる

3 国際交流

4 ふりむけば灰色

5 私たちの街の生涯学習プラン

6 市民が作る芸術文化

交流会（15：30～16：30）～部門を越えた交流・親睦を図る

ゲーム、おしゃべりタイム、21福生カルメン児童合唱団の合唱

*飲食有り（子どもクッキングとにじはらで）

参加者 211人

～実行委員会日程～

月 日	内 容
4. 27	つどい構想、実行委員長選出、会場、予算、実行委員会日程について
5. 20	分科会数、担当、交流会、つどい日程
6. 4	分科会、交流会内容について
17	ポスター、チラシについて
7. 2	会場決定、最終確認
11	公民館のつどい
22	つどいの反省、今後について

分科会構成

分 科 会 名	司 会	記 錄	事 例 発 表 者	助 言 者	会 場
障害者と共に 歩むまちづくり	中川キミ子	竹内 悅子 鈴木 忠勝	岩崎 節子 門脇 純一 鯉淵スマ子 岸 由美子	菅野鞠子 (家政学院大)	第4・5 集会室
地域と共に生きる	長屋 昭二	立川 愛雄 永井 栄美	鈴木てる子 高野正二郎	小林 繁 (明治大学)	第 3 集会室
国際交流	山田 浩 飯岡 一文	佐々木淑子		伊東信夫 (「ひと」) 編集委員	福祉会館
ふりむけば灰色	伊藤 則子	伊東 律子	高崎 文江 谷島 光治 藤岡 康幸	細金恒男 (早稲田大学)	第1・2 集会室
私たちの街の 生涯学習プラン	秋山 典子	田中 加代	平井 愛子	菊池 涼 (国分寺市光 公民館)	音楽室
市民が作る芸術文化	小林 昌幸	大泉 良一		大河内 真幸 (立川市地域 文化振興財団)	視聴覚室

第13回 公民館のつどい（平成6年9月15日（祝））

テーマ 「それいけ こうみんかん 一公民館 出会いがつくる人と街一」

分科会（13：15～17：00）～学習会（5分科会）

分科会 1 障害者と共に歩むまちづくり～共に生きるとはどういうことですか！～

2 女らしさ 男らしさから自分らしさへ～管理される性役割と教育～

3 市民がつくる芸術文化パートⅡ～市民芸術の現状と課題を考える～

4 国際交流～さまざまな国の人から日本を福生で語る～

5 私達のまちの生涯学習計画

展示～15日～18日の4日間実施。5団体他

手作りコーナー（10：00～12：30、13：30～17：00）～ステンドグラス

全体会（10：00～12：30）～講演会「生きることと学ぶこと～公民館は何のためにあるのか～

講師 小林 文人

アトラクション～歌と剣詩舞

参加者 333人

～実行委員会日程～

月 日	内 容
5. 10	つどい構想、実施時期の検討について（準備会として実施）
6. 7	つどい構想、予算、世話役選出、実行委員会日程について
23	つどい日程、構成について
7. 7	つどいテーマ、分科会、手作りコーナー、展示コーナーについて
21	つどいの構成、分科会、手作りコーナー、全体会について
8. 2	分科会、展示コーナー、全体会について
18	ポスター、チラシについて
9. 1	全体会、展示コーナーについて
6	会場の決定、記録集について
15	公民館のつどい
22	つどいを振り返る会、各部門の報告、今後について

分科会構成

テーマ	司会	レポーター	記録	助言者	会場
障害者と共に歩むまちづくり ～共に生きるとはどういうことですか！～	柳 正 (れんげ園)	佐藤 幹（れんげ園） ・貞二（父） 葦原 勝（東筋協ボランティア） 竹内雅子 (青年学級にじのはらっぱ学級生)・悦子 (母)、青木布美枝 (にじのはらっぱスタッフ)	奥田 京子 (おもちゃ図書館) 本木美登里 (あゆみの会)	なし	第4・5 集会室
女らしさ 男らしさ から自分らしさへ ～管理される性役割と教育～	伊藤 典子 (自由の風……)	白井千恵子（小学校教諭）、石橋 初子（福生市女性問題連絡会）	吉崎 賴子 (自由の風……)	中山 宜子 (国学院大学 ・福生市女性問題審議会委員長)	視聴覚室
市民がつくる芸術文化パートⅡ ～市民芸術の現状と課題を考える～	杉山 行男 (FMC)	小林 昌幸 (FMC)	有井 節子 (ドレミ)	なし	音楽室
国際交流 ～さまざまな国の人から日本を福生で語る～	山崎 笑子 (ゆうあいふっさ)	今井エステル、松本サユリ、吉田ヘディス、 呉、パンダラ、他	飯岡 一文 (ゆうあいふっさ)	なし	第3 集会室
私達のまちの生涯学習計画	秋山 典子 (EAFF)	なし	田中 加代 (まーまれーど)	小林 文人 (東京学芸大学)	第1・2 集会室

第14回 公民館のつどい（平成7年9月15日（祝））

テーマ 「公民館で会おうよ！ 一出会いははじめの一歩から！」

分科会（13：15～16：00）～学習会（6分科会）

分科会 1 子どもの「生命」と「教育」～戦後50年の教育と人権～

2 戦争体験を語る

3 女のつどい～アジアの女性・わたしたち～

4 私たちのまちの生涯学習計画

5 国際交流～世界からみたふっさ～

6 障害者と共に歩むまちづくり

わがまちを知る～車椅子からみたふっさ～

展示（全日）～保育室連絡会

全体会（10：00～12：15）～講演会「戦後50年に思う～アジアのなかの日本」

講師 中原 道子

参加者 226人

アトラクション～フラダンス

～実行委員会日程～

月 日	内 容
6. 7	昨年のつどいをふりかえって、構想、予算、役員選出、実施日検討
29	実行委員会日程決定、構成の検討
7. 20	分科会・全体会・展示、進行について
27	分科会・全体会・展示、手話通訳について、テーマ決定
8. 24	分科会・全体会、ポスター・チラシ、当日資料の原稿提出について
9. 7	分科会・全体会の会場決定
13	当日の進行確認、役割分担
15	公民館のつどい
21	報告、反省、今後へむけて

分科会

テ マ	司 会	レ ポ ー タ ー	記 録	助 言 者	会 場
子どもの「生命」と「教育」～戦後50年の教育と人権～	伊藤 則子	谷島 光治	吉崎 順子	高橋 伊平	視聴覚室
戦争体験を語る	小川 民八		立川 愛雄 永井 千枝美		第1・2集会室
女のつどい～アジアの女性・わたしたち	中川キミ子	石橋 初子	関根 和美	山崎ひろみ	音楽室
私たちのまちの生涯学習計画	秋山 典子	前原 照美	田中 加代		第6・7集会室
国際交流～世界からみたふっさ～	松木 光子	イレイ・アイダ、 イレイ・ダニエル、 大木アンジェリーナ	飯岡 照美		第3集会室
障害者と共に歩むまちづくり わがまちを知る ～車椅子からみたふっさ～	佐藤 幹	福生3中ボランティア部、 菊地 信吾（福生市職員組合福祉部会）	坂本 葉子 天野 良子	茅原 康弘 (八王子 若駒の家) 杉浦 貢	第4・5集会室

第15回 公民館のつどい（平成8年9月15日（祝））

テーマ 「それいけ、こうみんかん 一出会いがつくる人とまちー」

分科会（13：30～16：30）～学習会（6分科会）

分科会 1 「子ども・大人・育ち合い」～子どもの権利条約を生かすには～

2 障害者と共に歩むまちづくり

　　わがまちを知る～車椅子からみたふっさパートⅡ～

3 高齢化社会を考える

4 これからどうする私達の音楽活動

5 やっとできた「ふっさ女性プラン」

　～読もう・考えよう・行動してみよう～

6 外国人から見た「国際交流」

展示（9：00～16：30）～「どこから来たの配達弁当　どこへ行くの中学校給食」

全体会（10：00～12：00）～講演会「暮らしの中の憲法～憲法50年を記念して～」

　　講師：池上洋通

　　演示～尺八と琴の合奏

参加者 214人

～実行委員会日程～

月 日	内 容
5. 30	つどい構想、予算、役員選出、実施日検討
6. 6	実行委員会の日程決定、構成について、講演会のテーマの決定
27	分科会、全体会、アトラクションについて、キャッチフレーズについて
7. 4	分科会、全体会、展示、アトラクションについて、キャッチフレーズについて、手話通訳について、ポスターについて
25	"　　当日の記録提出について
8. 1	"　　分科会会場決定について
29	当日の進行確認、役割分担
9. 5	"
15	公民館のつどい
19	報告、反省、今後へ向けて

分科会

テ マ	司 会	レボーター	記 録	助 言 者	会 場
「子ども・大人・育ち合い」 ～子どもの権利条約を生かすには～	伊藤 則子	山川 光子	吉崎 頼子	白井 真	視聴覚室
障害者と共に歩むまちづくり わがまちを知る ～車椅子から見たふっさパートⅡ～	佐藤 幹 竹内 悅子	山下 一眞 渡部 武彦	土屋真由美 坂本 葉子		第4・5集会室
高齢化社会を考える	重見 通明	川辺 進	重見 通明		第1・2集会室
これからどうする私達の音楽活動	杉山 行男	鳥居 由幸	有井 節子	大河内眞幸	音楽室
やっとできた「ふっさ女性プラン」 ～読もう・考えよう・行動してみよう～	黒木まゆ美	石橋 初子	関根 和美	中山 宣子	第6・7集会室
外国人から見た「国際交流」	山崎 笑子	馬 靈芝 笠原アナベル アジス 趙 秀霞	飯岡 一文	天野 紀子	第3集会室

9. 公民館の援助事業

昭和62年度

後 援	延 回 数	利 用 团 体
大小ホール借上料援助事業	大ホール 小ホール	1回 2回
		市民音楽祭 福生市民劇団バッカス 福生市民コーラス

昭和63年度

後 援	延 回 数	利 用 团 体
大小ホール借上料援助事業	大ホール 小ホール	1回 2回
		市民音楽祭 市民劇団バッカス ニューダンスサークル
講 師 派 遣 事 業		7回
		福生市音楽愛好者連絡会 コール野ばら グループかっぽうぎ アマチュアマジッククラブ ありんこ ダメおやじの会 まつぼっくり

平成元年度

後 援	延 回 数	利 用 团 体
大小ホール借上料援助事業	大ホール 小ホール	1回 2回
		福生市音楽愛好者連絡会 福生劇団バッカス 福生市民コーラス
講 師 派 遣 事 業		7回
		福生市音楽愛好者連絡会 おしゃべり文庫 市民コーラス 福生アマチュアマジッククラブ ありんこ まつぼっくり 保育サークル交流会

平成2年度

後 援	延 回 数	利 用 団 体
大小ホール借上料援助事業	大ホール 小ホール	1回 4回 福生市音楽愛好者連絡会 市民劇団バッカス 福生市民コーラス 福生市スキー連盟 子ども達と自然を守る会
講 師 派 遣 事 業		7回 福生市音楽愛好者連絡会 子ども達と自然を守る会 保育サークルありんこ 福生混声コーラス 福生プレーパークの会 保育サークル桃太郎 福生アマチュアマジッククラブ

平成3年度

後 援	延 回 数	利 用 団 体
大小ホール借上料援助事業	大ホール 小ホール	1回 4回 福生市音楽愛好者連絡会 市民劇団バッカス 福生市民コーラス 福生市スキー連盟 子ども達と自然を守る会
講 師 派 遣 事 業		6回 福生市音楽愛好者連絡会 コーラス虹 婦人のひろば ありんこ 福生アマチュアマジッククラブ カラフルに教育のこと話しましょう

平成4年度

後 援	延 回 数	利 用 団 体
大小ホール借上料援助事業	大ホール 小ホール	1回 3回 福生市音楽愛好者連絡会 市民劇団バッカス 福生市民コーラス 子ども達と自然を守る会
講 師 派 遣 事 業		3回 福生ココロジーの会 ありんこ あおいそら+元気山盛り通信

平成5年度

後 援	延 回 数	利 用 団 体
大小ホール借上料援助事業	小ホール 3回	市民劇団バッカス 邦楽同好会 コール・コスモス／コール・野ばら
講 師 派 遣 事 業	2回	福生ココロジーの会 ありんこ

平成6年度

後 援	延 回 数	利 用 団 体
大小ホール借上料援助事業	小ホール 3回	市民劇団バッカス 邦楽同好会 市民音楽祭
講 師 派 遣 事 業	4回	女性学サークル いちごクラブ 福生市民コーラス あじさい

平成7年度

後 援	延 回 数	利 用 団 体
大小ホール借上料援助事業	大ホール 1回 小ホール 4回	市民音楽祭 市民劇団バッカス コーラス虹 市民コーラス 邦楽同好会
講 師 派 遣 事 業	2回	木工クラブ いちごクラブ

平成8年度

後 援	延 回 数	利 用 团 体
大小ホール借上料援助事業	大ホール 1回 小ホール 2回	市民音楽祭 市民劇団バッカス 邦楽同好会
講 師 派 遣 事 業	4回	福手の会 手話サークルもみじ 福生市民コーラス 女性学サークル

10. 公民館ふっさ

<公民館報の役割>

公民館が開館した昭和52年5月に、公民館の独自の広報紙である「館報—ふっさ市民会館・公民館」(現在の「公民館ふっさ」)第1号が発行され、市内全戸に配布された。翌年からの年四回発行のペースは現在でも変わらない。当時、市報は月1回、発行されていたが、市報とは別に、公民館独自の広報紙を発行した意義は大きい。

まず、福生市の公民館は市民会館との併設館があるので、多くの市民に市民会館と公民館の役割の違いを理解してもらうために独自のPRが必要であった。「公民館ってどこにあるんですか?」「市民会館の中にあるんですよ」という市民とのやりとりが現在でもしばしば見られるのだから、開館当初はなおさらである。創刊の頃からずっと公民館ってどんなところなのか、公民館をどう使えばいいのかなど、多くの市民に公民館を知ってもらい、よく使ってもらえるようPRを続けている。

それから、市民の主体的な活動を取り上げ、より多くの市民へ知らせるバイブル役を担っているところが、市報とは性格が異なる点である。

そして最後に、世の中の動きを公民館ではどうとらえているのか、公民館から伝えたいメッセージを市民へむけてしっかりと発信する場があることがあげられる。

いずれも、教育機関として行政から独立し、市民と共に市民一人ひとりの主体的な学びの場をつくっていく公民館の役割を考えると必要不可欠なことである。

<開館からの10年間>

創刊号から第27号までは「館報」といい、市民会館の広報の役割も持っていた。昭和59年5月発行の第28号から「公民館ふっさ」と名を改め、現在に至っている。昭和53年に松林分館、昭和55年に白梅分館がオープンしてからは、合同の広報紙

と位置付けられ、分館での主催事業やサークル活動も本館と同じように取り上げている。

<昭和62年からの10年間>

この10年の新たな動きとして、本館独自のたより「ザ・こうみんかん」が発行されたことがあげられる。それまで、松林、白梅両分館ではそれぞれ「分館だより」を発行しており、本館でも本館だよりが2号発行されたことがあったが途絶えていた。第1号、2号発行から期間はあいていたが、平成元年7月に、本館だより「ザ・こうみんかん」が発行された。結局第8号の発行で終わってしまったのだが、本館利用者からも「分館だけでなく、本館でも本館だよりを」との声が寄せられており、これから課題である。

この10年の「公民館ふっさ」には、「公民館ふっさ」を単なる公民館のお知らせにとどまらせないためのさまざまな努力が伺える。昭和63年発行の第47号から通算13回、表紙写真のテーマを「公民館ギネス」として、「若年度公民館“一”」や「子どもに喜ばれ度公民館“一”」というようにサークルの紹介をしている。

また、平成元年11月発行の第50号から「この人トーク」と名付けて、福生に関わりがあり各方面で活躍している方を紹介するコーナーがスタートしている。

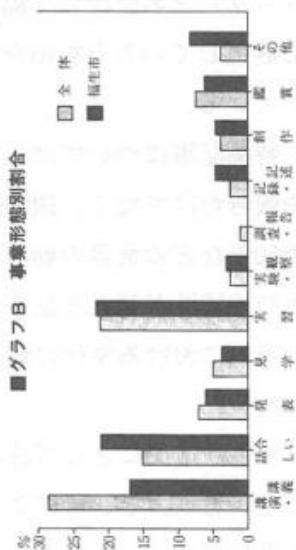
特集記事については、単に主催事業のお知らせや報告だけでなく、国際識字年、国際家族年、戦後50年などの世界の動きを視野に入れた記事、福生の地域性が見える記事、第九や市民オペラなど公民館における文化の創造を伝える記事が多く見られる。

福生の市民にとって読みやすく、楽しめ、読み応えがあり、そして何より公民館へ行ってみたいと思わせる「公民館ふっさ」になるための試行錯誤はこれからも続していく。

数字で見るわがまちの公民館



グラフ日 事業形態別割合



中心に考へていて「これがわざりやう」などとお出でになられるのではなく、「誰が問題的に関わるかをやさしく中止する」という点から問題解決策を考えるのだとおもいます。また、「記録・記述」の項目が他に比べ多いのは、福井の会議では「書くこと」の重要性を旨に看做しているからです。

利用上、
恵まれた公民館環境

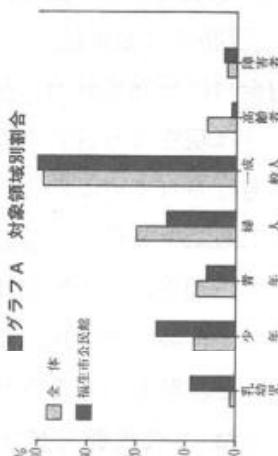
グラフC 人口一万人あたりの事業数



表1 各市町の人口・蹲座・公民館数

人 口	面積	施設数	15歳以上人口		
			男	女	合計
福 城 市	51,739 ¹⁾	54	4	12,934 ²⁾	10,444
真庭村山市	61,288	27	4	15,322	4,411
福 生 市	62,348	83	3	17,449	15,865
東 大 和 市	71,205	71	4	17,801	9,977
鈴 江 市	74,469	35	4	18,617	4,707
小 平 市	159,631	102	8	19,758	6,388
青 齐 村	113,045	200	22	16,699	17,697
杵 中 市	205,265	34	9	22,805	1,666
田 無 市	72,218	40	3	24,072	5,544
国 分 町	97,162	78	4	24,290	8,033
瑞 豊 町	27,892	2	1	27,592	0,727
立 川 市	149,007	96	5	29,801	6,444
狹 川 市	46,265	16	1	46,265	3,465
保 香 町	92,348	23	2	46,474	2,477
羽 村 町	45,322	24	1	46,322	4,977
三 菱 村	166,353	51	3	55,651	3,065
草 草 山 村	127,303	25	2	63,621	1,966
国 有 市	193,946	80	3	64,648	4,122
国 立 市	65,323	35	1	65,323	5,365
那 烏 市	98,181	47	1	96,181	4,779
小 金 井 市	105,233	12	1	105,233	1,144
芦 野 保 养 施 設	111,011	19	1	111,011	1,711
多 楽 市	127,645	23	1	127,645	1,880
武 藤 野 村	139,172	9	1	139,172	0,655
日 野 市	158,634	23	1	158,634	1,833
野 田 市	208,573	71	1	208,573	2,166
千 代 子 村	432,475	72	1	432,475	1,166

グラフA 対象領域別割合



また婦人層を中心の現在の公民権の利用実態からすると、やはり誕生の場合は婦人対象の割合が低いと言わざるを得ませべ。

気分はベートーベン

—260名の福生「第九」市民合唱団
「歌ひのうた」へ結団—

平成2年9月15日 公民報しつき No.53

「歌喜」の大合唱を

福生市民合唱団 外山 勝
指揮者 小林光さん

「ふしつきのまちに音楽を」と市制20周年記念事業のひとつとして企画された福生「第九」市民合唱団は、実行委員会や関係者の努力により260名の市民の方々から申し込みがあり、9月2日結団式が行われました。来年3月24日の演奏会に向けて7ヵ月間の練習がいよいよスタートしたのです。

この企画は、昨年9月からの準備会、今年にははいって7回の実行委員会を開き、趣旨、方法等について議論してきたもので、「市民参加、福生市への愛着、市政の足跡となり後世に残るもの、ふるさと福生づくりが目標」として20周年記念事業にふさわしくエホルギッシュな市民文化活動として市民を主人公に展開されようとしています。

この第9は、ソリストに齊田正子、伊原直子、小林一男、木村俊光。オーケストラは、新日本フィルハーモニー。指揮者は外山勝三の各氏と、いずれも日本の楽團の第一人者を迎えるもので、クラシックに關心のある方なら胸がワクワクするものです。来年3月24日の大合唱に包まれることでしょう。



第九合唱団を募集しまして。三百六十名の市民のみなさんの応募があまりました。全全国各地で豊富な経験をお持ちの合唱指導者、鶴見司博氏も「車美術展」同様、市民の自主的参加による実験的な小さな市民団位でこれだけの応募者数は前代未聞だ」と驚いておられました。先の「アベルトベイト・ノン・国際美術展」同様、市民の自主的参加による実験的な小さな夢が、来年三月の演奏会を目指して動き始めました。

「第九」を歌えるようになりたい!」三年前の「公民館のつどい」の分科会で「わたしならにまちに音楽を」の中で提出されたこの夢を、市制二十周年にこそ実らせようと、福生市音楽委員会連絡会の有志のみなさんが集まつたのが昨年の九月。以来、準備会や実行委員会を重ねること十二回。その中で、他の取り組みの状況を調べたり、合唱団員を募ったりの後、九月一日(日)に第一回の合唱講習会の運びとなりました。

第九合唱団を叫ぶのも大人げないことに、ボクタ・メトキンダな出来事として、エラウムの文化的事業への情熱と共に素直に喜びたいと思います。今後は、小林光氏を团长とする福生市の心地よい暖かいを高揚させつつ、円滑に運営されれることを期待してま



福生「第九」演奏会
平成3年3月24日(日) PM2:00
福生市民会館大ホール
指揮者 外山 勝
ソリスト 新日本フィルハーモニー
ソプラノ 齊田正子、アルト 伊原直子
テノール 小林一男、バスク 木村俊光
合唱指導者 福生「第九」市民合唱団
団員

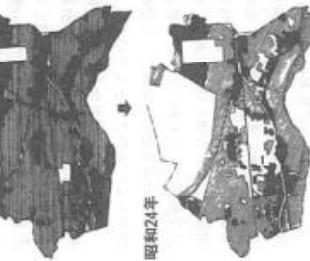
地球規模で考え、身近な所

福生市でも縁が減少



「台所は海への入口」
台所は海へ
海を汚してはいけないことは、うことです。たとえば、油を流すと、それは、なんとも困ります。何気なく捨てるような無駄をやめよう。

品名	規格に沿うる 種類	永久に分解不可能
紙	2~5ヶ月	
オレンジ皮 の殻	6ヶ月	
アーモンド の殻	10~20年	
瓦の棒	25~40年	
ヤシの殻	80~100年	
二重袋		永久に分解不可能
包装紙		永久に分解不可能



卷之三

福州市植物調查三次報告上

境内年より「地震発生」と題して「公館の未来」と講壇を開き、講師は公館のつどいでも、地震環境に関する分科会が2年連続で開かれています。この他、地震環境活動も活動しています。

An illustration of a grapevine with several bunches of grapes hanging from its leaves.

なぜ縁をつかさどりはならないのでしょうか。縁は、「酸化鉄素を吸収し酸素を放出する」天然の空気清浄器の役目を果たしてくれています。機器の供給量は、どこよりも多いのが特徴です。1年間に人間5万分。アマゾンの森林林木にいたるでは、地球の酸素供給の3分の1を担っております。「地球の肺」とまで言われています。この縁の破壊は、二酸化炭素の増加

數十億年前 地球の大気には酸素も少なく、
オゾン層もありませんでした。そのため地表には
隕石からの有害な強い紫外線が降り注ぎ、陸上に
生物は住めませんでした。やがて、酸素が地中
の植物によって作られオゾン層が地球を包むよう
になり、有害な紫外線をカットし、陸上にも生物
住めるようになりました。

この地球が何億年もおかかって作り上げたオ
ゾン層を、スマレリーや、クラーラや冷蔵庫の冷媒
など半導体の洗浄剤として使われているフロンが壊
つつつあるのです。そして、有害な紫外線のために
皮膚ががんを生むと言られています。上空20~
30キロに厚いオゾン層も、全オゾンを地表に集めて
だいたい3ミリの厚さになるだけだそうです。

それを壊すフロンは、オゾンのある破壊層にま
で昇り詰めたのは、人類が掛出したわずか10%程度
で、現実90%はまだ大気流圏に漂っているのです。
今でも早く考えなければならない問題です。

から行動する
—かけがえのない地球を救うために—

一かけがえのない地獄を救うための一



1種以上が絶滅
1日に

地球上には現在500万～1千万種の生物が存在すると推定されています。この内の約半数が、地表面積の6%にすぎない熱帯雨林に集中しています。その熱帯林が焼畑農業や商業伐採のために、毎年本州の半分にあたる面積が失われているのです。そのため、現在1日に1種以上の生物が地球上から絶滅している。このままでは10世紀には世界5万種が絶滅してしまうそうです。17世紀から20世紀までの300年間では、種の絶滅は4年に1種の割合であつたということですからものすごいペースです。

日本人初の宇宙飛行士秋山さんは、「やつぱり地球は青かった」と宇宙から見た地球的印象を送ってきました。しかし、一見青く見える地球も、実際は地球温暖化・酸性雨・オゾン層の破壊・熱帯の減少・沙漠化・生態系の破壊・海洋汚染等々の多くの地球環境の破壊にむしばまれているのです。

地図環境なんて大きさまで、豪華でてまるこことなってたかが知れるとおもえてしまう。しかも一人ひとりの「地図へのやさしい行動」の積み重ねが、かけがえのない地図を救っていくのです。それは、ゴミの出し方であつたり、地図にやさしい商品の選び方であつたり、車の乗り方・水や電気など、何事にもつながり合ひます。

そこで今回の特集は、「私達の生活のしかたを見直す材料のいくつかを取り上げてみました。未来地図として、今後の社会に人々の行動にかかっているのです。私達の子孫に「やつぱり賢い」地球をしていくために、「地球にやさしい」生活のしかたを考えてみませんか。

そこで今回の特集は「私達の生活のしかたを見直す材料」のいくつかを取り上げてみました。未来地図は、今の地理で使われる行動にかかっているのです。私達の子孫に「やっぱり實じ」地図を書いていくために、「地図論」にやさしい生活のしかたを考えてみませんか。

ふくさ女性フォー

◆10月17日(土) PM2:00
◆市民会館小ホール：入場無料

ささらに、夫は家事・育児責任を引き受けず。家族の経済責任だけを負ってしやにむに働くだけでよく、妻が働いていよいよがいまいじめ、家事・育児責任は自分がやることだと今は思わない。そのことが問題なのは、家族の家事責任どころか、自分に関わる食生活や自分の生命の管理・健康管理まで、「他人一人」に任せてしまうことです。

このように考えると家事育児を男女が協力しあって共に負うということは、「働き過ぎ」への備え止めよりもなりうるのです。

「今後西暦2000年までに多くなることはうがはいと思う人。(第2)から



宝井琴桜氏

「女性初の真打ち昇進」
1975年、「女性初の『均等法物語』『平塚らいてう伝』」
と題された書籍が、現代の女性問題・歴史上の女性をテーマ
とする前作園庭に取り組んでいる。

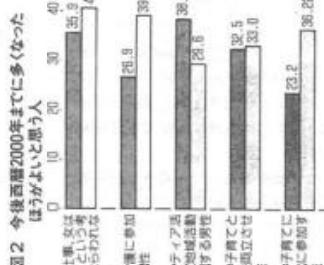
女性問題入門題～

～女性問題入門編～

あらすじ

平凡な勤く姫井女性・山下圭子さ
みを主人公としたお話です。

同僚のお部屋から帰った父が父さん
曰く「おいつは女房に殺されたよう
でもんだ。問題は女房だ。自分の仕
事を持っていたいのに勤務に付いて
ききづれ氣して死んだんだ。それに
しても、自分の健康管理は自分でし
ておきなくちゃ、生活の自立ができないな
かったということでしよう」と圭子
さんがあがほえ、「女が社会に出ると
家庭崩壊劇のもと」子供の歩行、離婚
が増えるし、老観介護は誰がする。母
の父をやん。物語のゆくは来て
るお楽しみ。



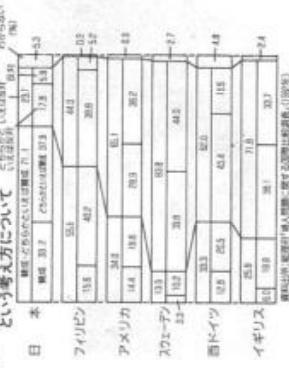
は、将来に向けての切実な願いが読み取れます。

解決に向けて

男性・女性という「性」にまらず、一人ひとりの人の個が認められた社会にしていくためには、「ただ平等な制度を整えるだけではよいとは言ませせん。」ある議論によると「2001年頃に男女平等社会が実現するための条件」として「個人の意識が変わること」が第一にあげられています。そのためには私たちは心の中にあらゆる差別意識などを乗り越えていくか、人と人の関係のあり方を聞いていくことを大事ではないでしょうか。

差別でわからず意識してられないことも、仲間と共に学習していく中で気づいていくことがあります。

そのためにも、まずはこのアオイヲ



講演講談会'92、7月

—クリエイティブに女と男の新時代—

女性問題とは、たとえば「男女間の賃金格差」や「男は仕事・女は家庭」という考え方、女はお茶くみ。コピー」というように、女性が女性であるといふ理由だけで性別差が差別され、社会的に不公平な取り扱いを受け、持つていても能力を十分に発揮できない状態。言いかえれば、女性が受けけるあらゆる差別、不平等、不自由、不利益のことです。

女人に生まれるか男に生まれるか、日本人に生まれるかどうかといつだことは、その人自身が選ぶことのできないとして努力して変わることのできないことです。そのようなあらからじめ与えられた条件を理由に差別することを不当と言えます。

そして、女性差別が政治、経済、法

性、性別観、慣習、道徳、教育、家族、人間関係、人々の意識など、社会のあるべき場面に存在し、互いに関連し合って容易に変えることができるといふ点でも大きな問題があります。

「男は仕事、女は家庭」日本がダントツ 優後 新しい民法 慶法のもとで「家」制度は否定され、法的には女性のさまざまな権利が保障されるようになりましたが、経済の発展とともに今まで「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業観はかえって強化されました。しかしも、国際的にも日本はその考え方が根強いのです。(図一)

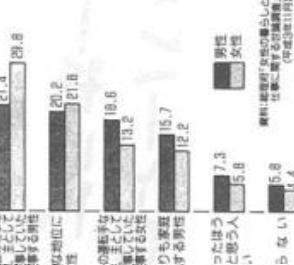
また、女性が働く場合でも、家庭・育児を全うしながら働きことを求めています。

長時間労働が
もたらすもの

一方、男性は年間労働時間が2000時間以上を越え、世界でもまれな長時間労働であることはつとにあります。

生活時間の調査結果では、父親に限定してみると、長時間労働によつて父親と子供の接触時間は少なく、小学校低学年の子どもとも父親は、平日一日で朝は父離れが出来なくなるまでの数十分くらい。就寝時間が遅ければ夜はゼロです。

また、日本は其の家庭で夫の家事・育児分担率は、欧米諸国に比べ極端に少なく、家事は女性といふ意識と共に、夫の長時間労働が家庭内での家



男性・女性という「性」にまらず、一人ひとりの人の個が認められた社会にしていくためには、「ただ平等な制度を整えるだけではよいとは言ませせん。」ある議論によると「2001年頃に男女平等社会が実現するための条件」として「個人の意識が変わること」が第一にあげられています。そのためには私たちは心の中にあらゆる差別意識などを乗り越えていくか、人と人の関係のあり方を聞いていくことを大事ではないでしょうか。

差別でわからず意識してられないことも、仲間と共に学習していく中で気づいていくことがあります。

そのためにも、まずはこのアオイヲ



円より子底

フリージャーナリストとして、女性問題・家族の問題を追う。1979年よりリニコニコ精神講座主宰。現代家族問題研究所代表。「主婦専修群」

なぜ

「女性問題」なの? 女性問題とは、たとえば「男女間の性格差」・「男は仕事・女は家庭」という方。女はお茶くみ・ヨビー」といううに、女性的女性であること、「うり難い男性」と差別され、社会的に不公平な扱いを受けたり、持っている能力を十分に發揮できない状態と言いかえり、「女性が受け取らるやうな差別」・「不自由」・「不利益」のことです。生まれるか男に生まれるか、日に生まれるかどうかといったことで、その人自身が選ぶことでのきなむとして努力してもらえることのできるなことです。そのようなあらわしめ等は、された条件を理由に基別するとは言えます。

して、女性差別が政治、経済、法

「男は仕事、女は家庭」が日本社会の常識となってしまった。しかし、国際的にも日本はその考え方方が根強いのです。(図上)

また、女性が働く場合でも、「家庭・育児を全うしながら働きたい」とを実現していく。

は仕事、
は家庭
日本がダントツ

新しい民法、憲法のものでは、女性は否定され、法的には女性的な権利が保障されるようになつたが、経済の発展にともなつて「女は仕事」、「女は家庭」という性別観はかゝつて強化されました。国際的にも日本はその考え方です。（図上）

長時間労働が
もたらすもの

一方、男性は年間労働時間が2000時間以上を越え、世界でもまれな長時間労働であることはつとにあります。

生活時間の調査結果では、父親に限定してみると、長時間労働によつて父親と子供の接触時間は少なく、小学校低学年の子どもとも父親は、平日一日で朝は父離れが出来たるまでの数十分くらい。就寝時間が遅ければ夜はゼロです。

また、日本は其の家庭で夫の家事・育児分担率は、欧米諸国に比べ極端に少なく、家事は女性といふ意識と共に、夫の長時間労働が家庭内での家

バイーバー！
ラボー！



一生の思い出としての
かぎり、

オベラ「カルメン」という題名はとても有名ですが、話の筋を説明できるのは、ごく一部の人だけではないでしょうか?「ドン・ホセは、カルメンのために人生が狂ったのね。」と、私達の心がわからなくなってしまった事がわかり、とてもうれしく思いました。

半生以上に渡る練習、仕事を終えてから遅晩で練習に加わる事も多くありました。他の合唱団員も、僕の世話を、家事、仕事等、忙忙しい中、時間を削いての参加でした。合唱練習をしている横で、「俄羅(俄国の)」「俄」が折り紙を折つたりしている光景が今まで目に浮かびます。公演前の2週間は、毎日ほとんどの練習でないへんでしながら、お互い励ましや、アドバイスをし、本番は満足できる出来栄えでした。昔がこれだけ頑張れたのは何を祈りましたが、皆さんに魅力、そして前向きな姿勢があつたからではないでしょうか。

一般の市民に対し、出演を通して鑑賞の機会をもたらす、この様な企画をこれまで多くさせて貰っています。そうすれば、俄米の様に気軽に音楽や芸術に触れることが出来るようになるのではないかと感じています。

今後も、きっと合間に何かの事で、出発する友女の工事の写真等が、出発者の方々に見て貰いたいと思います。

のみなさんと「21ふるさとカルメン合唱団」(16人)が前回されました。

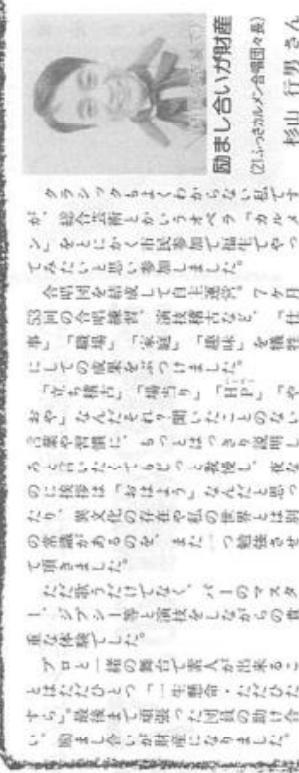
他に当月初の児童合唱団「21ふるさとカルメン児童合唱団」(41人)、公民館で活動する演劇サークル等からの「21ふるさとカルメン演劇団」(12人)も出席しました。また7ヶ月に亘る練習を重ねての本番でした。

一日の仕事を終えて、あるいは家庭を済ませての過酷な練習の回数は、介護団にいたっては33回にも及ぶものでした。

9月19日の本番では満席の観客から心からの感動の拍手が惜しみなく送られました。

うれしく思いました。半年以上に渡る練習、仕事を終えてから遅刻して練習に加わる事も多くありました。他の合唱団員も、僕の母語、家事、仕事等、忙い中練習をしていました。『准達(准則の准)』が折り紙を折つたりしている様で、『准達(准則の准)』に浮かびます。公演前の2週間は、毎日ほとんど練習でいいへんでしたが、お互い励まし歌うのが好きなだけではなく、溝出の方々、ソリスト、合唱指揮の先生方、合唱団員等、舞台に立つ人々に魅力、そして向向きな姿勢があつたからではないでしょうか。

この市民団体「ふれあい館」が、アマライの21の事業の一環として、アプローチのアマライの交流を図り、多くの山田にオペラ等を身近に親しくしてもらう目的で行われたものだ。



株式会社長崎県農業会議
長崎県農業会議

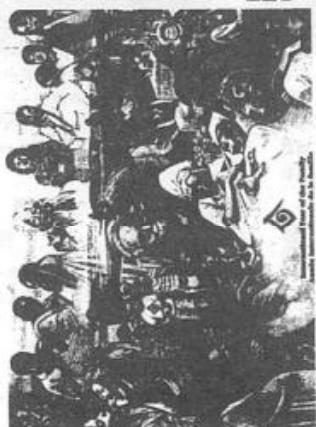
らうに私で子
ベラ「カルメ
て誕生でやつ
した」
運営。7ヶ月
古など、「仕
趣味」を慣
した。
「HP」や
なことのな
つきり説明
を教導し、夜な
を怠慢し、
なんだと思つ
の世界とは別

バーのマスター
しながらの貴
人が出来るこ
命・たたひな
団員の助け合
なりました。



国連シンボルマーク

The International Year of the Family 1994 — 国際家族年 —



カナダのAction計画ポスター

国際的にも「家族」の概念は変わっています。カナダのポスターには、いろいろな人種の家族はもちろべ、親と子の家族や一人家族以外にも同性のカップル、血縁ではなくお友達などさまざまな家族を認めていこうという流れがあります。

日本でも「家族」というものを問いかねばならない。女性の人生権を犠牲としている、特に女性の人生権を犠牲としている、相手

たものが平成2年には18・2%と増加しています。さらに「車・船・機械等における65歳以上の高齢者」の人数は昭和50年に106人であったのが、平成2年には591人となっています。15年間で約5倍強の増加になっています。これは、一人家族の増加が65歳以上の高齢者を中心としていることを意味しています。(図2)

これらは家族形態の変化が、福生においても著実に進んでいることを示しています。

新たな家族像

国際的にも「家族」の概念は変わっています。カナダのポスターには、いろいろな人種の家族はもちろべ、親と子の家族や一人家族以外にも同性のカップル、血縁ではなくお友達などさまざまな家族を認めていこうという流れがあります。

日本でも「家族」というものを問いかねばならない。女性の人生権を犠牲としている、特に女性の人生権を犠牲としている、相手

国際家族年は1993年の国連総会で定められました。家庭問題に対する関心を高めることによって、家族の依頼や課題をあらためて見直し、現状の問題に対する理解を深めることを目的としています。そして、さまざまな家庭が幸福になることを支援、促進するための施策をすすめることをめざしています。

国際家族年のスローガンは「家族からはじまる小さなアモーラシー」。家庭を構成する一人一人の人権を大切にして、新しい家族のあり方を考えてみませんか。

いま、家族は

経済の近代化に伴って核家族化や家族関係の希薄化、働く女性の増加、高齢化社会が進んでいます。また、個人の生活意識や価値観の多様化のもとで、現代の家族は大きく変貌しています。離婚や夫婦の不和、家庭内暴力、その中で、離婚者や夫婦の不和、家庭内の介護負担相手の問題が起きています。

特に乳幼児や高齢者、障害者に対する必要な援助が行きなくなっていることは深刻な問題です。

このことは子育てや心身の健康維持といつた、「これまで家族が担ってきたいろいろな機能が家庭だけでは果たせなくなっていることをあらわしています。」家庭の人の間隔のある方を聞いています。

これらは、日本の「家族のために個人がある」とする家庭的な家族の考え方

が日本の現代社会に合わなくなっていること、そのことによるひずみがあらわれていますから、国際家族年は家庭内の人の間隔が基本的人権に基づいた平等な関係になることと共に、「一人一人の自由な意思が尊重され、その成長が保護される家庭父長的な家庭の確立を求めています。」社会に適合できるような家庭を支援する政策の策定・実施をめざしています。

こんなに変わった 福生の家族

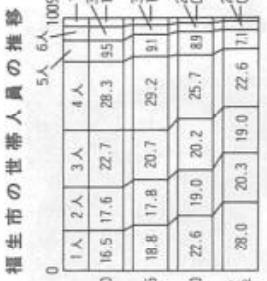
私たちのまち、福生では、家族の形はどうに変わってきているのでしょうか。家庭形態を国勢調査から見てみると、福生でも家族の小規模化・高齢化がすすんでいることがわかります。

世帯人口の推移では、昭和50年にいちばん多くたのは4人家族で28・3%で

すが、平成2年には1人家族(単世帯)が

最も多くなっています。

また、親族世帯における高齢以上の高齢者の割合は昭和50年に11・9%であつ



(図1) 国勢調査より

が28・0%といじばん多くなっています。また、平均世帯人口の推移は昭和50年の3・3人から平成2年度の2・7人へと3人を削っており、家族の人は減少の一途をたどっています。

福生でも核家族の数は年々増加していますが、全体に占める割合は減少しています。昭和50年に全体の約7割を占めていた核家族が平成2年には約6割になっています。これは、核家族の増加率よりも一人家族の増加率の方が急速な勢いで上まわっていることをあらわしています。

また、親族世帯における高齢以上の高

齢者の割合は昭和50年に11・9%であつ



(図2) 国勢調査より

公民館での取り組み

公民館ではこれまで家族の一員である女性・高齢者・障害者・青少年等に対して、それぞれの人の権利を尊重するという視点で事業を行ってきましたが、今年は特に国際家族年の意義をふまえた事業を予定しています。どうぞご参加下さい。

◆『家庭教育学習』

子育て・女性問題・手作り雑誌――子育て真っ只中のお母さんを対象に女性問題の視点から子育てを考え、雑誌づくりに挑戦。雑誌づくりを通して家庭教育を考える。(保育室併設)

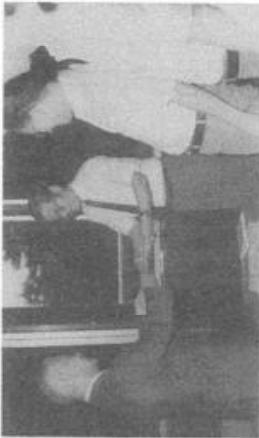
日時 6月7日(土)午前10時～正午 以後毎週火曜日全30回

場所 松林分館

◆『おとうさんの実践アートアート』

仕事で忙しいお父さんを対象に炭焼から焼き鳥までアートドアの実践と、父の家庭教育への意識をめざす。

- ◆『高齢者の生活と家族について考える講座』
- ◆『舞ひろび』
- ◆『おとうさんの生活と家族を考える』
- ◆『ふしき女性アートラム』
- ◆『娘子工作部室』
- ◆『男の料理』以上は公民館本館



学ぶことと住みはのりの権利

—生涯学習社会へ向けて
公運審が答申—

館の事業に引き離されて、「わたくしをはじめとした子どもに対する事業」女性問題と保健福祉活動を結びついた事業。各種の成人向け講座、「講演会」による障害者と健常者との交流等、市民が学び、交流し、地域に還元されている福生市公民館の特色ある歴史に反映されています。

福生市の公民館が目指す生涯学習

これまでの項目をふまえ、福生市の公民館はどのような生涯学習を目指すべきかを取りあげています。

(一) 市民の学習活動を支える無料の原則
市民が学習し、交流し、その成果を地域に還元する。そうした市民の学習を支える無料の原則(福生市の場合には「減免措置」を確立・維持していくべきことを強調しています)。

(二) 学習の主体は市民
第2の原則として、市民が自ら学習の中身を決める。公民館のより良い運営に参加すること。それは、利用者交流会等の活動を通じて具体化され、市民自治の街づくりに生かされることを示しています。

福生市公民館運営審議会は、平成5年11月1日付で福生市公民館長より「公民館における生涯学習の在り方について」の諮問を受け、平成6年8月31日付で答申書を提出しました。

公民館の今後を左右する重要な審議課題と受けじめられた審議会では、定期審議会に加えて臨時審議会を開催し、20回に及ぶ審議会の中で慎重に審議を重ね、今回の答申提出に至っています。

答申では福生市公民館の今後の課題や感想を検討し、答申の柱として6項目が盛り込まれています。今回はその概要を伝えます。なお、答申書の字は、公民館本館、分館に書いてありますのでぜひご覧下さい。

私たちが描く福生市の生涯学習社会像

「私たち市民は、いつの時期でも、学びだにこども思いをもつてています。学習したいといふ願いは、人として当然の願いであると同時に、基本的な権利でもあります。それは、『学習権』宣言(第4回ユネスコ国際成人教育会議)、「教育基本法」、「社会教育法」の理念であり、学習権は人間の生存にとって、なくてはならない基本的人権の一つであるといえます。」という著書きを出して、幼児から高齢者まで、全ての市民が平和で幸福な生活を求めて、自ら主体的に学ぶ生涯学習社会像を示しています。紛争による貧困、難民問題など大きく変化しつつある世界の動きは、米軍の軍事基地のある福生市比の身近な問題です。また、福生市のか

かるる高齢化の問題、障害者と共に生きる社会、情報通信システムの発達した社会で、その情報を市民が共有するための学び、福生市に居住したり働いている外国人の歴史や文化を理解し、共に生きる社会の創造・多摩川の清流や開辺の緑の保護をはじめとする環境問題は大切な学習課題です。

社会教育と公民館の役割

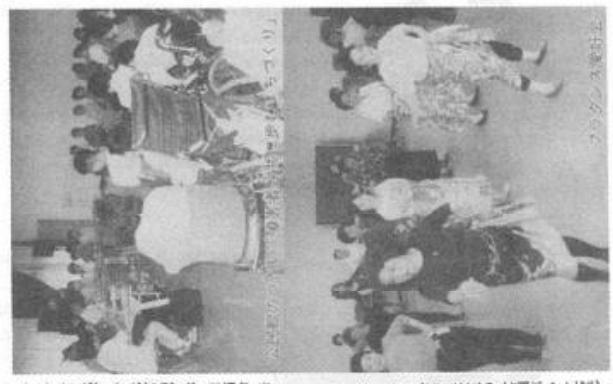
ユネスコ「学習権宣言」をもとに、市民の学習権、学習要求を示し、市民の要望に応えてきた社会教育、その中で特に重要な公民館の果す役割を強調しています。それは、市民が読み書き、聞き分け、深く考え、想像し、創造する権利であり、そのほか自分自身の世界を読み取り、歴史をつくる権利など、ユネスコ宣言の示した諸権利

を、最も身近に実現する社会教育機関である公民館の果す役割の大きいことを取り上げています。

福生市における公民館の歴史

福生市公民館は昭和52年に開館、松林分館は昭和54年、白梅分館は昭和55年にそれぞれ開館しています。

公民館設置の背景には、当時の若者(青年団リーダー)や、地域の先駆的な人々が組織した「ふつる公民館を創る市民の会」の活動とその後の公民館に開拓する要望で「市会館及び公民館の使用料に関する陳情書」を議会に提出するという取り組みがありました。このこのような先駆の公民館設置への取り組みとその後のかかわりは、公民



(3) 市民、公民館職員、講師が共に開拓する学習活動

学習の主体である市民、それを支える公民館職員、地域を理解した講師との共動によって創りあける、公民館の学習活動を取りあげています。

市民の学習を支える公民館職員体制

市民は、それぞれいろいろな学習ニーズを持っていますが、実際に学習しようとする場合、何をどのような方法で学習したらよいか、迷っている市民も多いと思います。そんな時公民館に行けば、必要な情報を提供したり、

市民と共に学習講座の企画等を立案できる職員体制の確立を要望しています。

また、女性の立場で相談、企画できる女性職員の各組一名配置も要望しています。

公民館施設の充実

市民の誰もが、いつも生涯を通じて学ぶための公民館は、市民の身近に設置されている必要があります。小学校区域に一つの公民館が必要です。(7館構想)さらに各館は独立館として、館ごとに公民館運営審議会を置くことを提案しています。

「昔の福生」を合唱 組曲に……
市民のオリジナル『コーラスファンタジー・虹の村』



「今、鳥居『犠牛』では第九、かうる像は
エヌティイバ」。市民オーラなどを併用
の手で実現してきました。それは音響
愛好者連絡会として市民音楽祭や市内
文化祭を長年行つてきた歴史的なネ
ットワークでやりの場があつたからか
しれませんね。

今回は人のつくった音楽を演奏するのではなく、自分たちでつくった音楽を演奏します。だから「私たち市民でやってなく、専門家の力も必要でした」と小林鶴が「もうですね、作詞と編曲をお願いした専門家は私たちのやろうとしていることをよく理解して内容のできる作品にまとめてくれました」と島田が「それから」原作を始め、作詞と編曲を福生の市井や福生のかかわりあの人たちの手でつくりあげることは地域の文化にじつて大事です。

□ 公民館が文化を発信する
皆さんはつくりあげている団体の文化や
樂文化についてどう思ひますか。
小林(4) 「東山や市川オペラを経験して、文化の受け手から発信者へと市川文化が確実に変化しています。超えてこの両楽家や指導者とともに多くの市民が同じ目標に向かつたのですから」。

ここには当然、人と人との信頼関係とネットワーカが生まれました。『虹の村』ももうこうしたネットワーカのなかから芽生えて出た市民文化ではないでしょうか。

文化を発信していくところは、市川市文化を発信していくところは、市川市

のネットワーカーが必要とのお品。では、ネットワーカーづくりで公民館の役割は

結論「この一連の流れのなかで共通しているのは公民館で活動している人がその中心になってしまることです。『絆の村』が受け継がれ、より多くの人の手のかかわりのなかで生まれかわっていくわけだ」
「公民館で出会った人のネットワーク」があつたからです。

小林蔵「音楽が文化となつてまちぐるみの活動にまで発展していくには、公民館の存在は大変重要です。『虹の村』や『第九』の市民主体の活動では参加者がひづつていいく町にあります多くの方負担をかけられます。こんな時公民館の援助が必要です」

（写真）高田幸一
トーラーの横の欄のつながりや、他のジャンルのグループとのつながりができるま
した。そこには、いろいろな形での公募ができます。
民衆の援助がありました。市民性の公募は、市民の声をよく聞き、市民民主と共に

活動していますね」
「公民館は文化を発信していく所で、ワークショップなどにとてて最も市民に身近な場所ですね。公演にむけにかべはつてください。本日はどうもありかとうございました!」

第14回 福生市民音楽祭
日時 平成8年6月2日(日)
午後1時開演
場所 福生市民会館大ホール
「爆料招待」整理券を公会館にて配布中
講演「愛の歌」
一市内のサトウルが歌う愛の歌
講演2部「コトラス、ファンタジト紅の村」
出演 指揮 小林光徳アソリュン 天野紀子、
子、ヴィオララ 磯部優美子、テレオ岡田
舟子、フットボル 広川伸ベーカッシュ
山崎奈保子、コトラス「紅の村」合唱団
福生児童合唱団、ピアノ 小山田切洋子、
山下やよい、中山佐和子、ナレーター
湯川あさき
制作・紅の村副作委員会
音楽 小林光徳 作詞 岩橋英子 作詞
鳥羽真子、作曲 小林光、有井節子、板戸
美沙子、岸田鈴子、小泉順子、佐藤智子、
広川文季、福山山上陽美
主催市民音楽祭実行委員会、福生市公
民館(☎ 32-7111)

市民がつくつた名曲「コーラスアンドハーモニー・紅い村」が6月の市民音楽祭で初演されます。『紅い村』は留学生の音楽をモチーフにつくられた名曲です。「留学生の音の構成」が目に浮かぶううほうに歌で構成されています。

制作しているのは「舞牛の市長」を中心に構成された「虹の弓」制作委員会。作曲は田代「彌曲から音楽」、照明「鏡音荘」、その手で手掛けている。メンバー一人の方には初めて由曲したといふ人も「作品完成に向けて、大変な」制作委員会の事務局に日々やさしくして顶いたり嬉しい思いを伺いました。

「氣の丸」は昔も正在る

制作委員会の事務局を担当される
る小林由季さん、そちらそちら、この『
の村』をつくろうとしたきっかけは?



作のお手伝いをしていただんすが、現在一緒に制作している小林栄さんから『虹の村』をみて、この物語を合唱仕立てにしたらおもしろいよ。とお話をあつたなんですね。

小林(元)「市民がつくつた『虹の村』は素晴らしいものでしたね。この作品に音楽がついたらどうなるのだろうか」と感じて話をしたのです」では、虹の村の原点は3年前の童謡

フエステイババだつたんで十日。

当時は確か小ホリで上演されました
そして、一九九三年、童謡フェスティ
バルで市民劇団バカラスが声を担当し
大ホリサイズとしてリメイクされた
のです。

福生和男さんは「ななよん」のメンバーバーでしたね。すると、福生のなかに「虹の村」が属々々と生き続けてきた。それは一つの文化といふるかもしませんね。

誰でもが文化につくに觸れる
音楽を担当された小林先生、今回
はオリジナリティといふことをいろいろな
ご苦労をおかけださると思います。特に
作曲については、初めてご高音の人も多

かつたと聞いていますが、
小林伸(文)「一人人が持つている感性を
作品として結構見せることなどはとても大
要な作業でした。思いついたメロディー¹
を歌詞に書き落とすなどには、イメージの
違いはないかと何度も書いて確認す
ることを繰り返し行わなければなりませ
ん。この推敲の作業が大変でした」
専門家でない人が制作にかかわらるこ
とは大変なことです。でも、あえて専
門家でない人には、



通して共有する」とです。だから「誰でも詩人や作曲家になれます」

（おは）「手間の合意」は大、一九

小林(笑)普通の恋愛では罪うことはできてしまうから今日は容易なことではありません。罵込みをするのが普通

「ですが、市民のネットワークから生まれた信頼関係がそれを越えさせたエネルギーとなります」

今回の公演を主催するのは市民音楽祭実行委員会です。その実行委員長の島田由幸さん、サトウルのネットワ